

2011. 3. 11

東日本大震災 岩沼市の記録

～震災から3年 地域再生と復興への軌跡～



発行 平成26年3月

制作 岩沼市

〒989-2480 宮城県岩沼市桜一丁目6-20

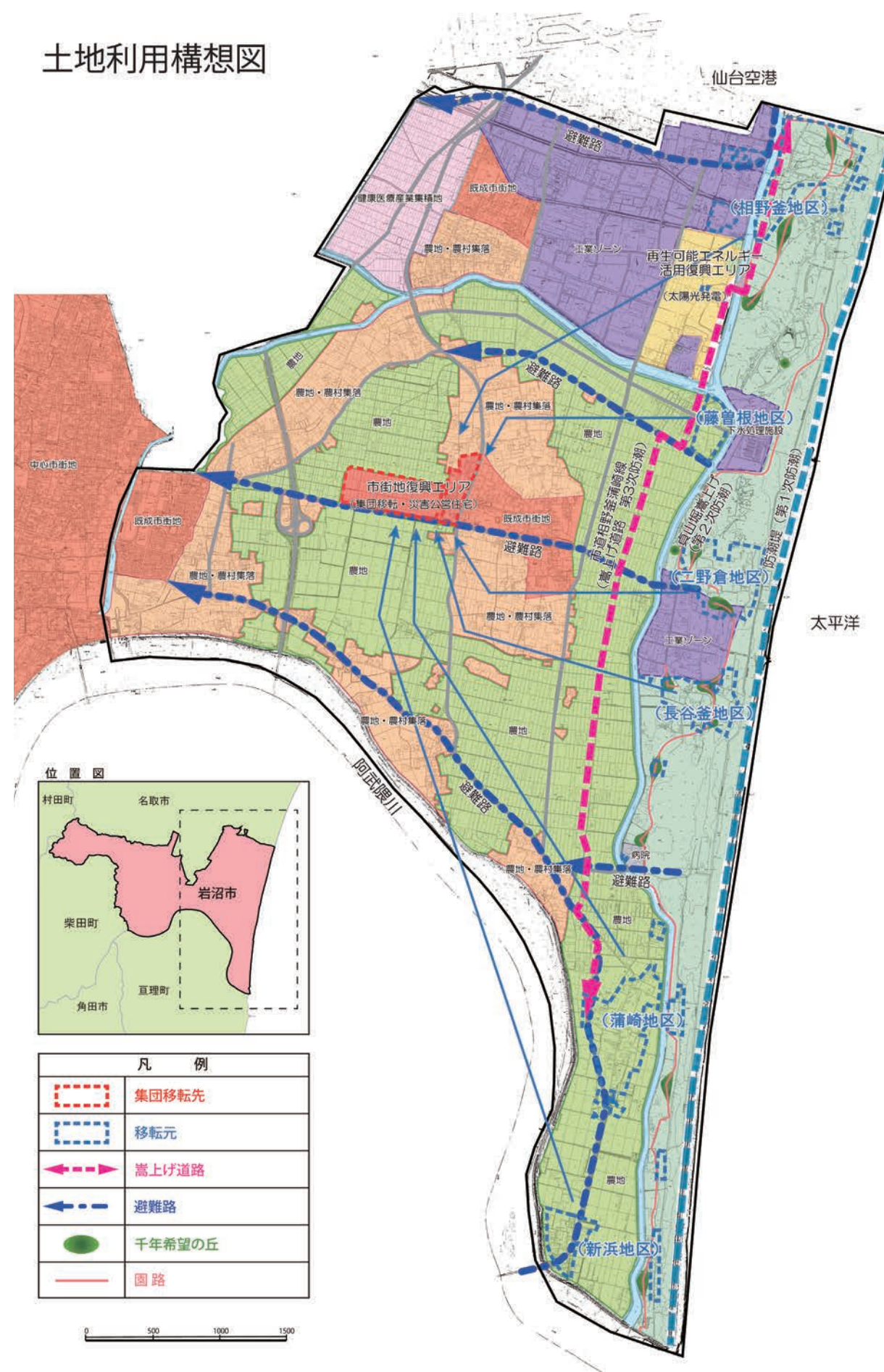
TEL: 0223-22-1111 FAX: 0223-24-0897

 宮城県岩沼市

目次

- ・発行に寄せて
岩沼市長 井口 経明…………… 1
- ・岩沼市の紹介…………… 2
- ・被災状況…………… 3
- ・被災写真…………… 4
- ・自衛隊による救出活動…………… 16
- ・復旧・復興活動（関連する主な出来事など）
 - ・2011年…………… 18
 - ・2012年…………… 46
 - ・2013年…………… 60
 - ・2014年…………… 77
- ・防災協定等締結状況一覧…………… 79
- ・土地利用構想図…………… 81

土地利用構想図



発行に寄せて



岩沼市長 井口 経明

東日本大震災から3年が過ぎました。震災でお亡くなりになられた方々に改めて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

岩沼市では昨年3月に、「東日本大震災 岩沼市の記録 ～震災から2年 地域再生に向けた軌跡～」を発行いたしました。3年という節目を機に、改めて、スピード感とコスト意識をもって取り組んだ復興への歩み等について整理し、私たちの体験や教訓を災害への備えとするとともに、全国各地からいただきました数多くのご支援やご協力を皆様に広くご紹介させていただくことで、何らかの役に立つことができればと考えております。震災を風化させないことも私たちの責務であり、その意味で本冊子を発行する意義はあるものと思います。

振り返りますと、最大で約6,800人が避難された避難所を集約し、そこに集落単位で移っていただきました。大震災から3カ月を前にして、希望される全ての皆様に仮設住宅へ入居いただき、被災地でいち早く避難所をゼロにすることができました。被災地の中で最初に復興計画を策定し、その計画の大きな柱である防災集団移転が平成24年3月、全国で初めて認可され、同年の8月5日、被災地第一号で集団移転先の造成工事起工式を行い、平成25年12月21日には、大規模な造成を伴う集団移転事業として被災地で最も早く土地の引き渡しを始めることができました。市民（被災者）と行政が丁寧に何度も話し合いを重ねた結果であり、地域コミュニティを最大限に尊重したまちづくりを進めております。また、同月17日には、被災農地の集約を進め、効率的で収益性の高い地域農業を目指す被災農地の基盤整備事業に宮城県が着手いたしました。復興計画の大きな柱で、津波の威力を減衰させる多重防御の一つ、かさ上げ道路の整備事業につきましても、平成26年1月18日、県内で初めて着工いたしました。新しい雇用の創出に向けた健康医療産業集積地「健幸サイエンスパーク」や物流拠点の整備、津波の減衰効果や避難場所、鎮魂の場などのさまざまな思いを込めた「千年希望の丘」の整備など、まだまだ課題はありますが、玉浦地区を再生し、より良い岩沼をつくることは私たちの使命でありますので、今後もしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

おわりに、世界各地、全国各地からいただきました数多くのご支援に感謝申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

岩沼市の紹介

本市は、宮城県の中央部、仙台市の南17.6kmに位置し、市域は、最大で東西約13km、南北10km、総面積60.71km²を有しています。西部の丘陵地帯から東部の太平洋岸までの間に平野が広がり、南部の市境には、阿武隈川が太平洋に流入しています。また、東北本線と常磐線、国道4号・6号の分岐点と結節点の交通環境にあり、さらに国際化する東北地方の空の玄関口となる仙台空港が所在するなど、交通の要衝でもあります。

かつて「門前町」、「宿場町」、「城下町」として栄えてきたまちであります。立地的優位性から大小の企業が進出し、工業地域の性格も加わり商工業都市として発展してきました。

※昭和46年11月1日市制施行。



被災状況

○東日本大震災発生状況

発生日時：平成23年3月11日(金)午後2時46分

震源地：三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km付近)

※震源地は岩沼市の真東の位置(北緯38度6分)

地震規模：震源の深さ約24km、M(マグニチュード)9.0(国内観測史上最大の規模)

震度：震度6弱(岩沼市)、(最大震度 宮城県栗原市で震度7)

大きな余震(市域で震度5弱以上の揺れを観測したもの)：

平成23年4月7日午後11時32分、宮城県沖震源、M7.2の地震発生、岩沼市で震度6弱

平成23年4月11日午後5時16分、福島県浜通り震源、M7.0の地震発生、岩沼市で震度5弱

平成24年12月7日午後5時18分、宮城県三陸沖震源、M7.3の地震発生、岩沼市で震度5弱
午後5時22分、宮城県全域に津波警報発表

○地盤沈下面積：500ha、市域の8%(5km²)が海拔0m以下となる。

○津波による浸水面積：市域の約48%
(被災した沿岸市町村で最大の規模=約29km²)

○人的被害(平成26年1月末時点)

直接死 180人(遺体確認数)

市内で亡くなられた市民133人 市外で亡くなられた市民16人

市内で亡くなられた市外居住者47人

間接死 6人(当該災害が原因で死亡)

行方不明 1人(戸籍法に基づく死亡の届出あり)

重軽傷者293人(消防庁災害対策本部 平成24年3月13日時点)

○住家・非住家被害(平成24年11月末時点)

全壊 736戸、大規模半壊 509戸、半壊 1,097戸、一部損壊 3,086戸、計5,428戸

床上浸水1,611棟、床下浸水114棟、非住家被害3,126棟

○避難所・避難者数

開設期間 平成23年3月11日～6月5日(県内最初に避難所閉鎖)

最大時6,825人(3月13日、26カ所)

○ライフライン被害

電気：全戸停電、平成23年3月14日～ 一部地域の通電開始、順次本格通電

水道：全戸断水、平成23年3月18日～ 一部地域の通水開始、順次本格通水

下水道：県の終末処理場「県南浄化センター」が全壊

○市公共施設の被害状況(平成23年度末時点)

公共土木施設：38億円、下水道施設：29億円、市営住宅：2億2千万円、

農林水産施設：99億円、福祉施設：2億円、教育施設：6億5千万円 ほか

※震災当時(平成23年2月末)と現在(平成26年1月末)の人口と世帯数

平成23年2月末 - 人口：44,128人、世帯数：16,003世帯

平成26年1月末 - 人口：43,819人、世帯数：16,532世帯

①玉浦公民館周辺 2011.3.11 17時02分



②早股地区 2011.3.12 8時25分



③矢野目周辺 2011.3.18 9時22分



④新浜地区 2011.3.18 9時12分



⑤蒲崎地区 2011.3.14 8時51分

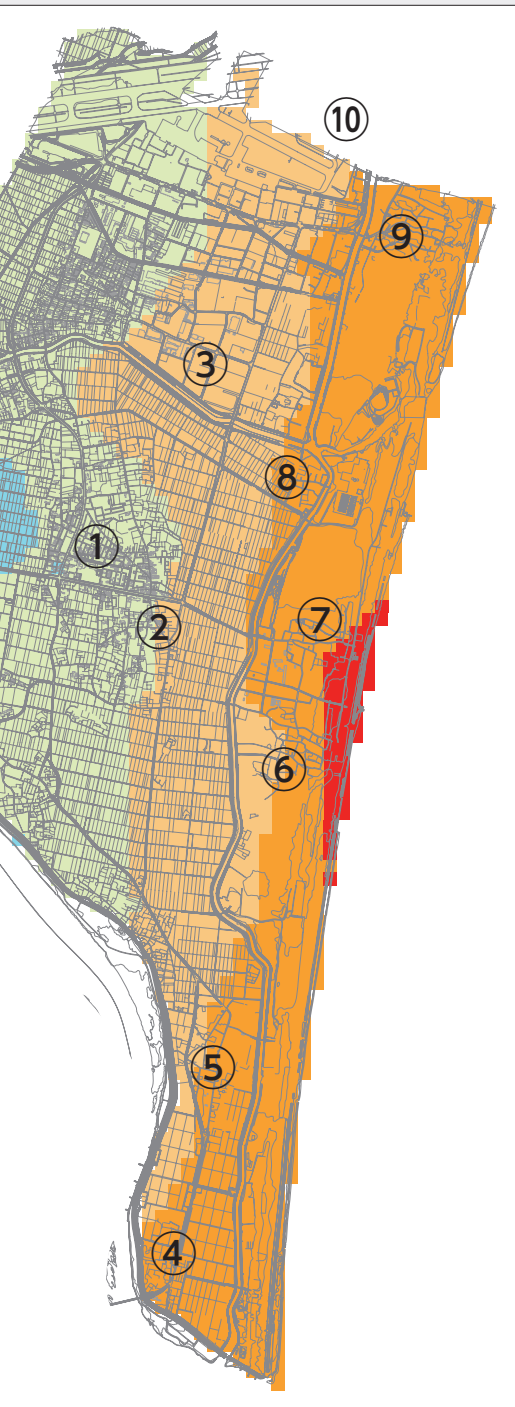


凡例

浸水深

- 0.0~0.4m
- 0.5~1.4m
- 1.5~2.9m
- 3.0~4.9m
- 5.0~6.9m

写真



※出典：東日本大震災による被災現況調査
(宮城8)





2011.3.11 15時54分
「県南浄化センター」
提供：宮城県



2011.3.11 15時56分
「県南浄化センター」
提供：宮城県



2011.3.11 16時01分
「県南浄化センター」
提供：宮城県



2011.3.11 17時02分
「玉浦公民館周辺」



2011.3.12 7時56分
「旧図書館」



2011.3.12 12時46分
「市道桑原北長谷線」



2011.3.13 9時19分
「東保育所」



2011.3.13 11時36分
「寺島地区」



2011.3.13 14時22分
「寺島学習館」

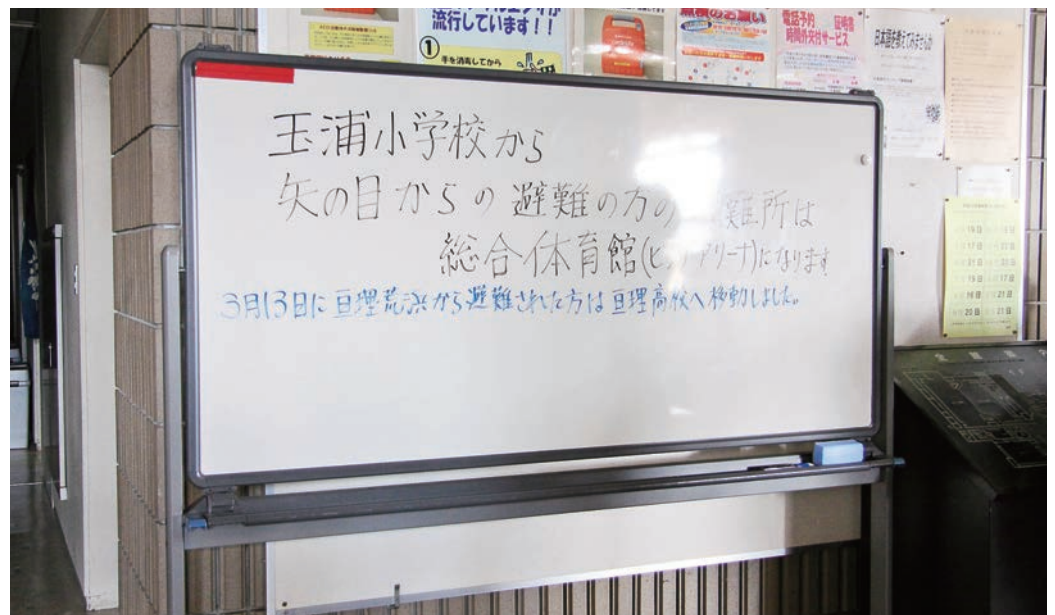


2011.3.14 7時40分
「蒲崎地区」



2011.3.14 9時08分
「蒲崎地区」

2011.3.14 13時18分
「市民会館エントランス
ホール」





2011.3.14 17時39分
「仙台空港周辺」



2011.3.14 17時40分
「仙台空港周辺」



2011.3.14 14時22分
「蒲崎地区」



2011.3.15 10時34分
「蒲崎地区」



2011.3.15 14時11分
「相野釜地区」



2011.3.17 15時39分
「臨空工業団地」



2011.3.17 15時46分
「相野釜地区」



2011.3.17 16時15分
「仙台空港」



2011.3.17 16時18分
「仙台空港」



2011.3.18 10時08分
「市役所1階正面入口」



2011.3.18 14時27分
「玉浦小学校周辺」



2011.3.18 14時29分
「市道空港三軒茶屋線」



2011.3.18 14時40分
「藤曽根地区」



2011.3.18 15時23分
「二野倉地区」



2011.3.18 15時27分
「二野倉地区」



2011.3.18 15時32分
「津波により被災した堤防(長谷釜地区付近)」



2011.3.18 16時04分
「長谷釜地区」



2011.3.18 18時18分
「市役所1階(特設公衆電話設置)」



2011.3.18 18時26分
「市役所1階(災害伝言掲示板設置)」



2011.3.19 9時21分
「臨空工業団地周辺」



2011.3.19 16時04分
「仙台空港」



2011.3.21 15時08分
「市民会館での健康相談」



2011.3.22 16時08分
「市民会館 (震災関連情報掲示板)」



2011.3.28 14時18分
「津波により被災した堤防 (長谷釜地区周辺)」



2011.3.18 9時14分
「寺島地区上空より北方面を撮影」



2011.3.28 14時21分
「巨理名取共立衛生処理組合」



2011.3.28 14時36分
「新浜地区」



2011.3.28 14時37分
「新浜地区」



2011.3.28 14時38分
「蒲崎地区」



2011.4.1 17時00分
「被災建築物応急危険度判定により危険 (赤色用紙) とされた建物 (早股地区)」



2011.4.13 14時52分
「藤曽根地区」



2011.4.15 16時36分
「市道松ヶ丘根方線」



2011.4.15 16時41分
「市道土ヶ崎16号線」



2011.7.3 10時57分
「地震による被災建物
(西部地区)」



2011.4.22 11時17分
「県道海浜緑地線」



「津波到達時刻の3時56分で止まった時計」
(巨理名取共立衛生処理組合)

自衛隊による救出活動



「長谷釜地区で水が引かない水田を横に並んで行方不明者を捜索」



「空港南地区で堆積物を乗り越えて一つひとつの建物を確認して行方不明者を捜索」

「東保育所の手洗い場にたまったヘドロを手作業で取り除き、一輪車で運搬」





「早股地区で重い大きな流木を皆の力を合わせて持ち上げて行方不明者を捜索」

「相野釜地区で重機が入ることができない水たまりの廃材を手作業で運搬し集積」



「五間堀川で水没した車両の中を1台ずつ確認しながら行方不明者を捜索」



「相野釜地区で流れ着いた物を取り除きながら行方不明者を捜索」

復旧・復興活動（関連する主な出来事など）

※本書中、役職名は当時のものです。

3/11

・平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震発生（14時46分）

本震について発表されたマグニチュードは、下記のとおりです。

14時49分発表 M7.9（気象庁マグニチュード・速報値）

16時00分発表 M8.4（気象庁マグニチュード・暫定値）

17時30分発表 M8.8（モーメントマグニチュード）

・災害対策本部設置（14時46分）

災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第23条第7項の規定に基づき、市長を本部長とし、副市長、教育長らで構成する災害対策本部を設置しました。当初、市役所5階に設けましたが、後に、市役所1階大会議室に移動しました。なお、会議には、国土交通省や陸上自衛隊などからも出席していただきました。



災害対策本部設置（市役所1階大会議室）

・宮城県の沿岸に大津波警報発表（14時49分）

・大津波警報発表直後に市長から「避難指示」発令の指示あり（14時49分）

・沿岸部に避難指示を発令（15時）

・避難所開設（15時）

震災発生により、把握しているだけで延べ39カ所の施設等に市民らが避難しました。最も多いときには、26カ所に6,825名の方々が避難しており、主な避難先は下記のとおりです。大津波により浸水した避難所もあり、適切な避難所への移動なども行いました。

【指定避難所】

市民会館・中央公民館、総合体育館、農村環境改善センター、岩沼小学校、岩沼南小学校、岩沼中学校、岩沼北中学校、岩沼西小学校、岩沼西中学校、玉浦小学校、玉浦中学校、ハナトピア岩沼、勤労者活動センター、竹駒神社崇敬会館、空港ビル、名取高校、岩沼高等学園、矢野目地区中央集会所

【その他】

総合福祉センター、保健センター、北部老人憩の家、西保育所、相の原保育所、市役所市民ホール・東棟、玉浦公民館、西公民館、グリーンピア岩沼、岩沼警察署、矢野目上自主防災テント（県道塩釜亘理線歩道上）、矢野目工業団地、創価学会岩沼文化会館、千貫団地集会所、ふたき旅館

・災害対策本部会議開催（17時10分）

本部長（市長）より「人命最優先で対応」するよう指示あり。

その後、平成25年3月27日まで延べ227回開催。

・市長による災害FM放送開始

市役所6階FM緊急放送室などから、エフエムいわぬまで災害情報や生活関連情報などを放送。市長自ら毎日新しい情報を発信しました。リアルタイムでの情報発信に努め、延べ209回放送。また、ラジオやテレビなどの報道機関を通じた広報、ホームページでの広報、避難所や市役所1階総合案内窓口への情報の掲示、広報いわぬま災害臨時号の発行などで、市民の皆さんへの情報提



井口市長ら避難所訪問



市長による災害FM放送

供を積極的に行いました。

- 庁舎前広場における水の供給開始

震災発生当日より、市役所前広場にある備蓄タンクより水の供給を開始しました。

- 各避難所への炊き出し配布開始

避難所に対し、炊き出しによるおにぎりとお水の配給を行ったほか、多くの企業や団体などから支援していただいたパンなどの食料、毛布、下着・靴下などの衣類、歯ブラシなどの生活関連用品のほか、さまざまな物資を配給しました。また、数多くの団体に避難所などで炊き出し等を行っていただきました。

- 陸上自衛隊救出活動開始

地震発生後から連日、海岸一帯を中心に、警察・消防と自衛隊により捜索活動や通行障害物の除去などが行われました。3月13日からは陸上自衛隊第33普通科連隊(三重県津市久居)を中心に、約500人体制で懸命に活動していただきました。流木やがれきなどの撤去については、自衛隊に加えて岩沼建設産業同友会などのご協力をいただきました。また、関係する皆さまのご理解をいただき、自衛隊の重機の投入により、がれきなどを取り除き、不明者の捜索を行いました。浸水地域の排水については、土地改良区の排水作業に加え、国土交通省からのポンプにより東部一帯の排水を行っていただきました。

- 遺体安置所開設

岩沼市民体育センターが遺体安置所となりました。市内でお亡くなりになられた180名の方が一時安置され、順次、ご家族のもとにお帰りになりました。安置所は、6月17日に閉鎖となりました。

- 救護所開設

診療や保健活動等の拠点である救護所を市保健センターに開設しました。市医師会、市歯科懇話会、岩沼薬剤師会、日本赤十字社をはじめとしたさまざまな医療チームや大阪市の支援を受け、巡回診療・健康相談を行いました。救護所などでの診療は、3月17日に終了しましたが、その後も東北大学や他県からの医療チームによる避難所の巡回診療や、市医師会による夜間診療を行っていただきました。



給水を待つ市民の列



市民会館前での炊き出し



自衛隊によるがれき撤去

3/12

- 宮城県の沿岸に津波警報発表(20時20分)

- 亘理町から約400人の避難者の受け入れ

- 給水車による水の供給開始

断水に対応するため、地震発生翌日の3月12日から市内各所(最大で市内6カ所、岩沼市役所、ハナトピア岩沼、岩沼小学校、岩沼北中学校、玉浦中学校、日本マニファクチャリング前)で給水を行いました。

- 支援物資第一陣到着(食料・水・毛布等)

- 日赤ドクター派遣チームが来訪し活動開始



支援物資仕分け作業

・災害ボランティアセンター開設（県内初）

社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会が宮城県内で最も早く災害ボランティアセンターを開設しました。

ボランティア受付数21,790名（市内5,407名、市外2,034名、県外14,279名、不明70名）、活動件数3,440件（家屋片付け2,463件、給水等977件）【平成25年12月末時点】

【主な活動内容】

断水・停電下での給水配食活動

公共施設等の清掃・泥かき支援

避難所への支援

炊き出しボランティアの派遣支援

家具の片付、家屋・屋敷周りの泥かき

町内会等住民との側溝の泥かき

仮設住宅への引っ越し、物資搬入

被災地、仮設住宅でのニーズ調査



災害ボランティアセンターによる片付け作業

3/13

- ・宮城県沿岸に津波注意報発表（7時30分）
- ・宮城県沿岸に出されていた津波注意報解除（17時58分）
- ・村井嘉浩 宮城県知事らが岩沼市内を視察
- ・気象庁による東北地方太平洋沖地震の規模を示すマグニチュードの修正発表

12時55分発表 M9.0（モーメントマグニチュード）



自衛隊によるがれき撤去

3/14

- ・沿岸部への避難指示発令を避難勧告に切替（12時）
- ・災害総合案内窓口を開設

市役所1階に災害総合案内窓口を設け、震災に関するさまざまな情報提供や案内を行いました。

- ・玉崎浄水場復旧
- ・沿岸部を除き一般家庭ごみ回収再開

可燃ごみの収集については、震災直後から避難所を中心に行いました。



村井宮城県知事らによる市内視察

3/15

- ・市営火葬場再開
- ・高知県南国市、山形県尾花沢市より支援物資到着



災害総合案内窓口設置

3/16

- ・災害対策本部会議開催

当面、本部会議を6時、11時、15時、18時、21時に開催することとし、併せて、緊急時は随時開催することとしました。

- ・沿岸部への避難勧告を解除(15時)
- ・沿岸部を除き電話復旧
- ・米軍による「トモダチ作戦」開始

4月11日まで仙台空港で米軍による「トモダチ作戦」が行われました。米軍各部隊(空軍・海兵隊・陸軍)の延べ3,500名の方々に、救援物資輸送作業(延べ87機)、人力・重機を使用した空港内の被災車輛やがれきの撤去などを行っていただきました。

- ・仙台空港滑走路の運用開始

国内外の救援物資をヘリや車輛で被災地へ配送する輸送拠点として運用されました。

3/18

- ・緊急生活支援金の支給手続き開始

被災した市民に対し、当面の生活を営めるよう緊急生活支援金を支給しました。家屋の全壊・半壊または床上浸水の被害を受けられた皆さまに世帯ごとに2万円もしくは3万円とし、総計3,832万円を支給しました。

- ・一部地域で通水、順次本格通水

3/19

- ・市役所窓口の休日開庁開始

4月24日(日)まで、通常時には閉庁している土曜日や日曜日などに開庁し、住民票の交付等を行いました。

3/20

- ・高知県南国市 藤村明男 副市長来訪(食料・水等物資の支援)

高知県南国市から藤村明男副市長が来訪し、大型トラック4台分の救援物資を届けていただきました。また、南国市職員の皆さまから千羽鶴とお手紙を、大湊保育所の園児の皆さまから、お花の折り紙と共に“はげましの寄せ書き”をいただきました。

3/21

- ・自衛隊530人体制で行方不明者搜索
- ・国土交通省リエゾン班による支援制度の周知開始



行方不明者搜索活動

山形県尾花沢市 加藤國洋 市長来訪 (食料・飲料水等物資の支援)

山形県尾花沢市鶴子ふるさとこども村の皆さまから支援物資が届きました。また、尾花沢市建設業協会と市職員の皆さまから、交代で給水活動へのご協力をいただきました。22日には、加藤國洋尾花沢市長からお見舞いと励ましを、また、避難者の集団での受け入れ体制も用意している等のお話もいただきました。

避難所を回っての震災相談窓口を開始

市内4カ所の避難所を巡り、被災された方々のさまざまな相談を受けました。市民会館167件(3/22～3/26)、総合福祉センター11件(3/23)、総合体育館106件(3/27～3/29)、農村環境改善センター40件(3/30～3/31)、期間中に計324件の相談がありました。

道路や事業所内にある自動車の仮置場へのレッカー移動を開始

被災自動車の推計総数2,022台

広報いわぬま災害臨時号発行(全世帯へ配布)

市内の状況(避難者数、遺体安置所、水道の復旧、下水道、清掃センターの状況、排水機場の被害)をはじめ、災害復旧支援等(捜索活動と災害復旧活動、姉妹都市南国市からの支援、友好都市尾花沢市からの支援)、各種制度等のお知らせ(り災(届出)証明書の申請・交付、市税等納付書の送付ならびに納期の延期、市・県民税所得申告(確定申告)期間の延長、国民年金保険料、仮設住宅)、各種相談窓口等のお知らせ(総合相談窓口の開設、健康相談等)、各種お知らせ(火葬、ごみの収集、津波により被災した自動車の取り扱い、市民バス、学校に関する情報、ボランティアなど)に関し、市民に情報提供を行いました。

り災証明書等の申請受付開始

仮設住宅建設工事着工(第1次)

市民会館東側にある里の杜駐車場における仮設住宅建設工事が着工され、18棟102戸が4月27日に完成しました。仮設住宅累計102戸。



建設が進む仮設住宅

広報 いわぬま 災害臨時号 平成23年3月28日発行/岩沼市 岩沼市役所 〒22-1111(特)

—市役所前広場に震災写真を掲示しています—

マグニチュード9.0の巨大地震！ 大津波で沿岸部は壊滅的被害

市民の皆さまへ
平成23年3月11日(金)午後2時46分に発生した「東北地方太平洋沖地震」におきまして、幅広くなられました皆さまに深く哀悼の意を表しますと共に、誰一人ご家族を失われず、被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興に向けて私共も一層に邁進してまいります。

岩沼市長 川口 賢明

▲多額の被害が確認された柳野釜公園遊園地 ▲岩沼市にある被災現場に設置されている、被災犬9匹の仮安置所

3月11日(金)午後2時46分ごろ 岩沼で震度6強 観測史上最大の地震による津波で 未曾有の被害

1. 市内の状況

(1) 避難者数について 3月25日(月)午後3時現在の避難者数は28施設に約6,500人が避難していましたが、現在約3施設(合計約710人)が避難しています。

(2) 遺体安置所について 3月25日(月)午後6時現在の遺体安置所は、市民会館(センター)に、144名のご遺体が安置されました。なお、警察では市民会館センター前で夕方閉庁の身元確認を行っています。(身元確認は午前8時～午後6時30分)

(3) 水道の復旧について 3月25日現在の、給水車等による給水は、一部の上水道施設を除くほとんどの地域で復旧しましたが、今後漏れが発生した場合は緊急で修繕しなければならぬことから、予定通り復旧することはありません。ご理解願います。また、給水車に無い給水車に接続がある場合は、指定業者を呼びます。なお、各地区での復旧については個人対応となります。【問い合わせ先】450-4500

(4) 下水道について 観測史上最大の地震により、市民会館浄化センターが全壊し、完全復旧まで建設費を2年かかる見込みで、現在は下水の全廃を計画中で復旧し、復旧している状況です。上水道が断水されたことにより、一時に大量の排水が集中すると、汚水があふれる可能性もあります。

▲市民会館から給水車の風景 ▲被災現場に備え給水の準備をつづ形勢

2. 災害復旧支援等

(1) 捜索活動と災害復旧活動について 捜索、被災品、遺体等の捜索活動、水道管修繕、給水、給電復旧、仮設物資等、路上清掃をはじめ、さまざまな団体・企業等からの支援をいただいています。

(2) 姉妹都市南国市からの支援について 3月29日、南国市市長から岩沼市市長宛に、大型トラック4台分の救急物資を届けていただきました。また、南国市議員の皆さまから干預品と食糧品、大規模倒壊の被害をまわす、お祝いの旗と共に「はげましの声書き」をいただきました。

(3) 友好都市尾花沢市からの支援について 山形県尾花沢市から岩沼市へ、さまざまな物資の皆さまから支援物資が届きました。また、尾花沢市建設業協会と市議員の皆さまに、交代で給水活動へのご協力いただきました。22日には、加藤國洋尾花沢市長からお見舞いと励ましを、

また、避難者の集団での受け入れ体制も用意している等のお話もいただきました。

▲被災した民家内を捜索する自衛隊隊員 ▲おけがが重篤な被災者

広報いわぬま災害臨時号 3月28日発行

3/29

- ・災害家庭ごみ搬入開始

亙理名取共立衛生処理組合事務所北側隣接地・南浜中央病院東側(岩沼市寺島字川向45-53)に災害家庭ごみ(粗大ごみ、電化製品)の搬入場所を設け、5月31日までに、推計5,440トンが搬入されました。



搬入された災害家庭ごみ

- ・被災者にグリーンピア岩沼(モンタナリゾート)入浴施設の無料開放開始

3月29日～4月28日の入浴者数2,244名

4/1

- ・市民バス運行再開(東部地区の一部を除く)

4月28日まで無料運行を実施しました。

- ・保育所の通常保育再開(東保育所を除く)

- ・南部地区総合福祉プラザ(岩沼みなみプラザ)開館

- ・被災者総合相談窓口開設(市役所6階)

市役所6階第2会議室に被災者総合相談窓口を開設しました。

開館した新施設
「岩沼みなみプラザ」

被災者総合相談窓口開設

4/4

- ・米陸軍音楽隊によるロビーコンサート開催

市民会館で第296米陸軍音楽隊の皆さんに

よるロビーコンサートが行われました。避難者は、「避難所にいると暗いニュースをテレビで見るばかり。久しぶりに明るい気持ちになった」と話していました。

4/5

- ・仮設住宅受付開始

4/7

- ・市議会議員全員協議会において東日本大震災に係る対応について報告

- ・東北地方太平洋沖地震の余震発生(23時32分)

マグニチュード7.2、岩沼市で震度6弱を観測

- ・宮城県沿岸に津波警報発表(23時34分)



米陸軍音楽隊によるロビーコンサート

4/8

- ・宮城県沿岸に出されていた津波警報解除(0時55分)

- ・仮設住宅建設工事着工(第2次)

既に建設の始まっていた里の杜駐車場の北側における仮設住宅建設工事が着工され、11棟60戸、集会室1棟、駐車場160台分が5月8日完成しました。仮設住宅累計162戸。また、同日、多目的グラウンドでも建設が始まり、16棟100戸の仮設住宅が5月15日に完成。仮設住宅累計262戸となりました。

4/10

- ・福島第一原発事故による農産物への影響調査開始

4/11

- ・住民票等の無料交付開始
無料交付配付件数等(住民票8,778件、所得証明654件、計9,432件)
- ・東北地方太平洋沖地震の余震発生(17時16分)
マグニチュード7.0、岩沼市で震度5弱を観測

4/13

- ・仙台空港国内線民間航空機の運航が一部再開

4/15

- ・広報いわぬま災害臨時号発行(全世帯へ配布)

3月28日発行の広報いわぬま災害臨時号に続き、東日本大震災被害状況、市民の皆さまへの市長メッセージ、生活支援等(災害弔慰金、災害障害見舞金、岩沼市自然災害見舞金、被災者生活再建支援制度、住宅の応急修理)、税金等(平成22年度分市税等の納税通知書の発送、市税等の減免、平成23年度市税等の納期限の変更、被災した軽自動車等の軽自動車税の課税停止、土地および家屋の価格等縦覧帳簿の縦覧、介護サービス利用者の利用者負担、上下水道料金の取り扱い、国民年金保険料)、住宅・車両等(り災証明等の申請受付・交付、津波により放置されている自動車、被災住宅相談窓口の開設)、ごみ(生活ごみの収集、災害ごみの収集、災害ごみ等の自己搬入、家庭ごみの減量化、分別)、各種お知らせ(市民バス、住民票の無料交付、被災者のための総合相談窓口、被災者支援特別行政相談所、水道の復旧等、節水のお願ひ、悪質商法に対する注意喚起、ボランティアの派遣依頼、学校に関するお知らせなど)に関し、市民に情報提供を行いました。

- ・仮設住宅建設工事着工(第3次)

この日に始まった多目的グラウンドにおける仮設住宅の建設は、5月15日に終了。12棟62戸、集会室1棟、駐車場167台分が完成し、仮設住宅累計324戸となりました。

4/18

- ・市内電力の97%復旧
- ・被災した沿岸6地区との意見交換会を開始。以後、定期的に関催

4/19

- ・流出物の展示開始(8月31日展示終了)

津波で流出等した拾得物の受理や管理、洗浄作業等については、公益社団法人青年海外協力協会にご協力いただき実施しました。

拾得物の総品数26,681件、引き渡し総数16,255件、残10,426件、引き渡しの割合60.9%

がんばろう！岩沼
Iwanuma

広報 いわぬま

災害臨時号②
 平成23年4月15日発行
 岩沼市役所 ☎22-1111(代)



生活再建の第一歩として、着々と建設が進む仮設住宅(里の杜駐車場)

《東日本大震災被害状況》
岩沼市内・平成23年4月11日現在

- ・平成23年3月11日 午後2時46分ごろ
- ・マグニチュード9.0 震度6弱
- ・死亡者168人
(市内122人、市外43人、身元不明3人)
- ・行方不明者15人
- ・避難者555人
- ・避難所3カ所(市民会館、総合体育館、農村環境改善センター)
- ・全半壊(流失含む)約500棟、床上浸水約1,000棟

市民の皆さまへ

史上空前の大惨事をもたらした東日本大震災から1か月あまり、本市におきましても、特に津波により、海沿いの6集落が壊滅的な被害となるなど、未曾有の大災害となりました。

震災で犠牲になられた皆様には深く哀悼の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げます。

現在は災害復旧に全力を注ぎ、今後は復興に向けた動きを加速し、長大な被害を受けた沿岸部を中心に復興への確かな道筋を、市民の知恵と力を結集しながら描き、進めていきます。長い道のりになるかもしれませんが、必ずや岩沼を復興させることをお約束いたします。

がんばろう岩沼。そして決してあきらめません。ふるさと岩沼。岩沼市長 井口 経明

主な内容	
生活支援等	P2
税金等	P3
住宅・車両等	P4
ごみ	P5
各種お知らせ	P5～8

市のホームページを
 ご覧ください！
 市のさまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。
 URL <http://www.city.iwanuma.miyagi.jp>

広報いわぬま災害臨時号 4月15日発行

24

4/20

・「災害特別総合行政相談所」の開設

市役所6階第1会議室および第2会議室に開設しました。

【参加関係機関等】

法務局：建物の滅失登記、相続登記、権利証の紛失等

財務局：預金の払い戻し・融資の返済猶予等

国税局：税申告の猶予、減免、雑損控除等

労働局：震災に関わる労災、失業給付等

日本年金機構：国民年金保険料の免除、社会保険料の納期限延長等

運輸局：自動車検査証の有効期間の延長、水没車両の廃車手続き等

住宅金融支援機構：災害復興住宅融資

日本政策金融公庫・経済産業局：被災中小企業の支援、農林漁業復興融資等

総合通信局、NTT：放送受信障害、通信障害等

宮城県：県への相談窓口の案内

弁護士会、司法書士会：被災に係る法律問題、手続等

学識経験者：放射能による健康への影響等

行政評価局等：その他行政全般

4/21

・市内4小学校入学式開式

東日本大震災の影響で遅れていた市内小・中学校の入学式が、小学校は4月21日に、中学校は22日にそれぞれ行われ、小学生438人(男217人、女221人)、中学生389人(男213人、女176人)が新たな第一歩を踏み出しました。津波で浸水した玉浦中学校には、新入生40人が入学し、横橋校長から「失敗を恐れず全力でチャレンジしてください。しっかりと中学生生活を送ることが地域の大きな希望となります」とお話がありました。



玉浦小学校入学式



玉浦中学校入学式

4/22

・市内4中学校入学式開式

・市議会議員全員協議会において東日本大震災に係る対応について報告

4/24

・仮設住宅第1次入居者説明会開催

・陸上自衛隊東北方面音楽隊による激励演奏会開催

「陸上自衛隊東北方面音楽隊による激励演奏会」が総合体育館で行われました。会場には、震災で被災し、総合体育館や市民会館に避難している方々などがたくさん集まり、皆、音楽隊の演奏や歌に元気や勇気をいただきました。



陸上自衛隊東北方面音楽隊激励演奏会

4/25

・岩沼市震災復興本部を設置、岩沼市震災復興基本方針策定

復興に関する方針や総合的な施策を迅速に行うため、4月25日、庁内に「岩沼市震災復興本部」を設置し、①チーム岩沼、オール岩沼、オールジャパン②歴史を大切にしたい安全・安心な市域づくり③岩沼の個性、特性を活かした産業の再構築④時代を先取りした先進的な復興モデルの4項目の基本理念と、計画期間を7年間とする“岩沼市震災復興基本方針”を決定し、スピード感とコスト意識を持って復興に取り組むことになりました。

4/26

・公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団による支援コンサート開催

4/27

・被災地区住民との懇談会開催

4/29

・仮設住宅の引渡し開始

宮城県が3月下旬から市内里の杜地区に建設していた応急仮設住宅の第一次入居分102戸が完成し、4月29日、二野倉地区と相野釜地区、長谷釜地区の一部の方が入居しました。仮設住宅入居者には、日本赤十字社から炊飯器や冷蔵庫、洗濯機などの家電6点セットが贈られたほか、企業などからも布団などの生活用品が提供され、各戸に配置されました。



引渡しが開始された仮設住宅



仮設住宅へ荷物を運び込む入居者

5/1

・市総務部内に震災復興推進室設置

5/2

・中村時広愛媛県知事来訪

愛媛県から市民会館と総合体育館の避難所運営業務に多くの職員を派遣していただきました。5月の連休を利用し、中村知事が来訪。岩沼で被災地や避難所の状況を視察され、活動中の派遣職員に激励を送りました。

・「嵐」の大野智氏・服部幸應氏が玉浦小学校を慰問

人気アイドルグループ「嵐」の大野智氏と料理評論家の服部幸應^{ゆきお}氏が玉浦小学校を訪問し、昼食として児童らにカレーの炊き出しなどをしていただきました。

5/7

・第1回岩沼市震災復興会議開催

(会長 東京大学大学院工学研究科教授 石川幹子 氏)

有識者や被災者代表などの皆さまから、復興の在り方について意見を伺うため、「第1回岩沼市震災復興会議」を開催しました。井口市長から今回の震災による被害状況や復旧作業の内容、今後の復興に向けた考え方などの報告後、議長と副議長を互選。議長には岩沼出身で東京大学大学院教授の石川幹子氏、副議長には市商工会長の小野宏明氏が選任されました。



第1回岩沼市震災復興会議

岩沼市 震災復興会議

協議事項

- ①東日本大震災の復興に関すること
- ②岩沼市震災復興基本方針に関すること
- ③岩沼市震災復興計画に関すること

委員

学識経験者、産業関係者、被災者代表 など

岩沼市震災復興会議 委員名簿 [選出区分50音順・敬称略]

選出区分	氏名	役職等
学識経験者	石川 幹子	東京大学大学院工学系研究科教授 (都市工学専攻) 宮城県震災復興会議委員
	今村 文彦	東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター教授 宮城県震災復興会議委員
	大澤 啓志	日本大学生物資源科学部准教授(景観生態学)
	駒村 正治	東京農業大学教授(農業、塩害対策)
	杉本 隆成	東京大学名誉教授(沿岸生態学 海岸工学)
産業関係者	小野 宏明	岩沼市商工会長・岩沼市都市計画審議会会長
	高橋 弘次	名取岩沼農業協同組合長
被災者代表	沼田 健一	相野釜地区(岩沼市議会議長)
	渡邊 美恵子	矢野目地区(前岩沼市総合計画審議会委員)
市民代表	佐藤 幸男	
	渡邊 大作	
	齋藤 舞美菜	

【オブザーバー】

国土交通省 東北地方整備局	本多 吉美	仙台河川国道事務所副所長
宮城県	遠藤 信哉	宮城県土木部次長
	斉藤 敬一	宮城県震災復興・企画部地域復興支援課長
農林水産省 東北農政局	永嶋 善隆	農村計画部長

岩沼市震災復興会議アドバイザー名簿 [委嘱順・敬称略]

選出区分	氏名	役職等
学識経験者	大滝 精一	東北大学大学院経済学研究科長 (主な専門 経営政策)
	相澤 秀夫	宮城教育大学 教授 (主な専門 国語教育)
	大塚 悟	長岡技術科学大学 教授 (主な専門 地盤工学)
	真野 明	東北大学 附属災害制御研究センター長 (主な専門 水工水理学)
	宮林 茂幸	東京農業大学 教授 (主な専門 地域環境)
	平川 新	東北大学 教授 (主な専門 日本近世史)

岩沼市震災復興アドバイザー名簿 [選出順・敬称略]

選出区分	氏名	役職等
有識者	西 垣 克	宮城大学学長
	大山 健太郎	アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長
	渡邊 一夫	医療法人将道会南東北病院 理事長
	千葉 敏雄	独立行政法人国立成育医療研究センター 医学博士
	仁田 新一	東北大学加齢医学研究所教授

5/13

・市議会議員全員協議会において東日本大震災に係る対応について報告

5/23

・第33普通科連隊感謝の会開催

大震災2日後の3月13日から人命救助、行方不明者の捜索、道路の啓開、倒壊家屋・車・がれき・土砂などの撤去、炊事・給水支援、音楽演奏など、昼夜を分かず、あらゆる支援活動をしていただいた陸上自衛隊第33普通科連隊の皆さん。避難者全員が6月5日までに仮設住宅等に入居し、最後の避難所となった市民会館が閉鎖される見込みとなったことから、5月23日に感謝の会が開かれました。陸上自衛隊にはこれまで、第10師団第33普通科連隊(三重県津市久居駐屯地)、第3師団第7普通科連隊(京都府福知山駐屯地)、第6師団第22普通科連隊(多賀城駐屯地)などを中心に、力強いご支援をいただきました。



陸上自衛隊第33普通科連隊感謝の会

5/27

・阪神タイガース選手団来訪、被災した玉浦中学校等で生徒と交流会開催

阪神タイガースの鳥谷敬、金本知憲、新井貴浩、藤川球児、久保田智之、桧山進次郎、ブラゼル、マートン、スタンリッジの9選手が、市民会館や仮設住宅、玉浦中学校を訪れました。市民会館では、避難している方など一人ひとりと写真撮影をしたり、サインに応じたりしていました。その後、玉浦中学校を訪問し、全校生徒との懇談や野球スポーツ少年団・玉浦中学校野球部に実技指導を行うなど長時間にわたり、子どもたちとの触れ合いを持っていただきました。



子どもたちと触れ合う金本選手

5/28

・市民図書館開館

岩沼市民図書館の開館式が行われ、市長が「市民図書館は市民の財産です。愛情を注げば愛情あふれる施設になります。より多くの人に使用していただきたい」とあいさつ。その後、大きな手作りのマスターキーが、市長から図書館を管理運営する教育委員会に託され、図書館長へと手渡されました。開館当日の貸出利用者数943名。貸出資料点数は、3,363点で、初日から多くの資料などが貸し出されました。また、2階のふるさと展示室にも多くの方々が訪れ、岩沼の歴史年表や発掘された土器、懐かしい農具などさまざまな資料に見入っていました。



市民図書館開館

・サッカー日本代表選手団来訪、被災した玉浦小学校で児童と交流会開催

サッカー日本代表の長谷部誠、川島永嗣、家長昭博、安田理大、内田篤人の5選手が玉浦小学校を訪れました。「サッカー選手が来る」としか伝えられていなかった中、海外で活躍する超有名選手の登場に驚きと喜びの歓声が上がっていました。89人の子どもたちは選手と手をつないでの「だるまさんが転んだ」やサッカーのミニゲームなど、プロの選手と直に触れ合いました。



サッカー日本代表選手団来訪

5/29

・第2回震災復興会議を開催

市役所において「第2回震災復興会議」を開催しました。市長から第1回震災復興会議での意見等の確認や市の震災復興本部確認事項等の報告後、石川幹子議長をはじめとした各有識者や市民代表などによる活発な意見交換が行われました。特に被害の大きかった東部沿岸6地区の住民の皆さんに対し、今後の居住等に関するアンケート調査を実施した結果をはじめ、さまざまな意見等を復興計画の参考にすることとされました。

5/31

・ベガルタ仙台手倉森監督・選手来訪、玉浦小学校で児童と交流会開催

ベガルタ仙台の手倉森監督と選手ら5人が玉浦小学校を訪れ、東児童館の1年生～3年生の登録児童40人と約1時間、サッカーや遊びを通して楽しく触れ合いました。参加者の中には被災した児童もいて、選手らと鬼ごっこで手をつないだり、ミニサッカーの対戦をしたり、地元のプロ選手と触れ合い、気分転換や心のケアになりました。



ベガルタ仙台選手ら来訪

6/1

- ・市議会議員全員協議会において東日本大震災による対応について報告

6/4

- ・皇太子ご夫妻が壊滅的な被害を受けた相野釜地区をご訪問

皇太子ご夫妻が、東日本大震災の被災地お見舞いのため、宮城県を訪問されました。震災後にご夫妻が被災地入りされたのは初めてのことで、阪神・淡路大震災以降16年ぶり。午後1時28分、自衛隊機で仙台空港に到着し、仙台空港ターミナルビル会議室において、村井嘉浩宮城県知事から県内の被災状況について説明を受けられた後、特に被害が甚大だった相野釜地区を視察されました。市長から被災状況や復興計画に関することなどの説明を受けられた後、海の方にお二人で頭を深く下げられ、黙礼されました。岩沼の視察後、ご夫妻は山元町の避難所となっている学校施設2カ所に移動され、避難されている方々をお見舞いになられました。



皇太子ご夫妻による市内被災地視察



2011

6/5

・県内で最初に全避難所を閉鎖

津波被害を免れた平坦な公共用地を活用し、仮設住宅の建設を急ぎました。被災者に仮設住宅への移転を積極的に呼びかけ、死者100人を超す被災市町村の中で最も早い6月5日に全避難所を閉鎖しました。

6/11

・陸上自衛隊中央音楽隊と名取高校吹奏楽部による激励演奏会開催

市民会館エントランスホールにおいて、「陸上自衛隊中央音楽隊と名取高校吹奏楽部による激励演奏会」が行われました。当日は震災からちょうど3カ月目の節目で、演奏の合間となる午後2時46分には皆で黙とうを捧げました。会場にはたくさんの方々が来場し、自衛隊の中でもトップと言われる中央音楽隊の演奏と、地元の名取高校のフレッシュな演奏を楽しんでいました。



6/15

・市議会議員全員協議会において東日本大震災による対応について報告

陸上自衛隊中央音楽隊と名取高校吹奏楽部による激励演奏会

6/18

・玉浦中学校で東日本大震災岩沼市合同慰霊祭開催

震災により犠牲となられた196人の市民、市外居住者、行方不明者、また、避難誘導の際、津波の犠牲となられた区長、消防団員、警察署員、市職員の慰霊を行うため、震災から100日目となる6月18日、「東日本大震災岩沼市合同慰霊祭」が玉浦中学校屋内運動場で執り行われ、遺族や市民約1,200人が参列しました。



岩沼市合同慰霊祭

慰霊祭では、初めに、仙台フィルハーモニー管弦楽団による追悼演奏とともに、市内で身元が確認された192人の犠牲者の名前が読み上げられました。黙とうに続き、市長が式辞を述べ、「犠牲となられた方々に報いるためにも、決してこの忌まわしい出来事を風化させず、先進的な取り組みにより、必ず美しい誇りをもって住み続けることができる希望のまちに復興、発展させていきます」と誓いました。

参列者は悲しみをこらえながら、白い菊の花を献花台にささげ、犠牲者の冥福を祈るとともに、これからの岩沼の復興を誓いました。



・加藤登紀子さん追悼・復興ミニライブ開催

歌手の加藤登紀子さんが市役所を訪れ、市長と対談しました。市の被災状況や、震災後に加藤さんが感じたこと、訪問した各被災地の様子、岩沼の農業などについて話し、その様子が後日エフエムいわぬまなどで放送されました。対談後、玉浦小学校で「加藤登紀子追悼・復興ミニライブ」が行われ、集まった方々は、手拍子しながら「おときさん」のきれいな歌声に聴き入っていました。



加藤登紀子さん追悼・復興ミニライブ

6/19

・三枝成彰さんによる岩沼市復興支援コンサート開催

毎年岩沼市でコンサートを開催している三枝成彰さんにより、「岩沼市復興支援コンサート」が行われ、三枝さんのほか、サクスの寺久保エレナさん、ピアニストの小原孝さん、ソプラノ歌手の塩田美奈子さんが出演しました。寺久保さんは小柄な体からは想像もつかないパワフルな演奏を披露し、会場をジャズ一色に染めあげました。小原さんは、自身のラジオ番組のような語り口で軽快なトークを繰り広げ、会場のリクエストに応えながら演奏しました。塩田さんは、懐かしの唱歌6曲を披露。最後に小原さん作詞作曲の「逢えてよかったね」を会場の皆で歌い、大きな歌声に全員で拍手を送りました。



岩沼市復興支援コンサート

6/25

・JOCA（ジョカ）^{※1}と協定締結（被災地初、仮設住宅サポートセンター開設のため）

※1 JOCAとは・・・Japan Overseas Cooperative Associationの略称で、開発途上国の人々のために、自分の持つ技術や経験を生かし、活動してきた青年海外協力隊（JICA（ジャイカ）^{※2}が実施するボランティア事業）のOB・OGを中心に組織されている、外務省認可の社団法人。

※2 JICAとは・・・独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agencyの略称で、開発途上地域等の経済および社会の発展に寄与し、国際協力の促進などに資することを目的としている。

・里の杜サポートセンター開設

このサポートセンターは、高齢者や障害者などのさまざまな相談を受け止め、専門相談、心のケアなどにつなげる「総合相談機能」と、仮設暮らしによる孤立や引きこもりを防ぐための「交流拠点としての役割」などを担う目的で設置し、県内では初めての開設となります。運営は、6月25日に社団法人青年海外協力協会(JOCA)と市の間で「仮設住宅サポートセンターの運営に関する協定」が締結され、JOCAから看護師などの医療・福祉関係者のほか、コーディネーター等を生活支援員として配置していただきました。



・片山善博総務大臣・自民党谷垣総裁へ要望書提出

片山善博総務大臣へ井口市長が被災者支援の継続などに係る要望書を手渡しました。

なお、総務大臣に先立ち、6月30日に自民党の谷垣総裁はじめ役員に同様の要望書を提出しました。



片山総務大臣へ要望書提出



谷垣総裁へ要望書提出

・第3回震災復興会議開催

市長から6月以降の復旧・復興に関する状況説明や、これまでに震災復興会議からいただいた意見に対する対応と今後の検討事項等について報告後、委員相互による活発な意見交換が行われました。

・市議会議員全員協議会において東日本大震災による対応について報告

・鹿野道彦農林水産大臣視察

鹿野農林水産大臣が、震災による農業などへの影響を視察するため、市内の農業用排水機場などを訪れました。応じた市長は、国の責任で地盤沈下対策をとることなどを求めた緊急要望書を鹿野大臣に手渡しました。

岩沼市は、震災により約500haが地盤沈下し、農地の4分の1が海拔0m以下となりました。



鹿野農林水産大臣による市内視察

7/10

・歌おう！東北のど自慢 開催

当初は、5月22日に市制40周年を記念し、NHKのど自慢を開催する予定でしたが、震災により中止になったため、NHK仙台放送局と市の共催で「歌おう！東北のど自慢」が陸上競技場で行われました。司会是小松宏司アナウンサー、ゲストは歌手の鳥羽一郎さん。当日の朝は、震度4の地震や津波注意報が発表され、お昼過ぎには突然の雷雨に見舞われましたが、本番収録の夕方には無事晴天に。予選会と本番を合わせて約550人が観覧や応援に訪れ、会場には手拍子や笑い声、笑顔があふれていました。

午前中に行われた予選会には59組が参加し、その中から選ばれた15組が本選へ出場。それぞれの想いを込めて、皆、熱唱しました。



歌おう！東北のど自慢

7/13

・七十七ふれあいコンサート開催

七十七銀行主催の「七十七ふれあいコンサート」が市民会館で行われ、市内小学5、6年生963人が参加しました。コンサートには、仙台フィルハーモニー管弦楽団のフルオーケストラが出演し、迫力ある演奏を披露してくれました。また、指揮者の佐藤寿一さんが、楽器の音色の違いを笑いを交えながらそれぞれ説明すると、子どもたちは興味深々の様子でした。さらに、たくさんの希望者の中から、岩沼小6年の丸尾和磨君と岩沼西小6年の谷口篤志君がステージに上がり、オーケストラを前に指揮者を体験しました。



七十七ふれあいコンサート

7/16

・NHK ジュニア陸上教室 in 岩沼開催

NHK仙台放送局と市の共催で「NHK ジュニア陸上教室 in 岩沼」が陸上競技場で行われ、市内の中学生79人が参加しました。講師はマラソンランナーでタレントの谷川真理さん。谷川さんは今も多くのマラソン大会に出場し、社会貢献活動もたくさん行っています。陸上教室では、ランニングの心得、呼吸方法やトレーニング方法など、具体的に教わり、参加者はスキルアップを目指して、楽しく学びました。

・仙台フィルマイタウンコンサート開催



NHK ジュニア陸上教室 in 岩沼

7/18

・アラブ首長国連邦 (UAE) アルノワイス駐日特命全権大使が来訪

アラブ首長国連邦のアルノワイス駐日特命全権大使が被災地の現状を確認する目的で岩沼を訪問しました。赤井江の岩沼海浜緑地公園展望台から太平洋沿岸部や東部地区の被災状況を一望されたほか、皇太子ご夫妻が視察された場所やがれきの山を視察されました。



アラブ首長国連邦 (UAE) アルノワイス駐日特命全権大使来訪

7/20

・ポーランドワルシャワ工科大学クズロフスキー教授による特別授業

ポーランドのワルシャワ工科大学のクズロフスキー教授 (元科学高等教育省副大臣) が岩沼西小学校を訪問し、6年生を対象に特別授業を行いました。「希望、そして夢・あこがれ」をテーマに、ポーランドの美しい風景の写真などをスライドで紹介しながら、自分の子どもの頃のことや、現在研究しているナノテクノロジーのことなどを話していただきました。



ポーランドワルシャワ工科大学クズロフスキー教授による特別授業

7/28

・被災地に尾花沢スイカを届けよう！プロジェクト

山形県尾花沢市の若手スイカ生産農家と市職員が岩沼市を訪れ、仮設住宅入居者を対象にスイカ500個を無料で配布していただきました。

・仮設住宅で健幸スマイル体操による“健幸”づくり活動開始

毎週木曜日の午後、里の杜東・西・南住宅の各集会所で、いわぬま“健幸”づくり隊とスマイルヘルスサポーターによる健幸スマイル体操がスタートしました。



尾花沢スイカとメッセージ

尾花沢スイカの提供



仮設住宅で健幸スマイル体操

7/30

・全国高校生銃剣道大会開催

平成18年から毎年岩沼市で開催し、6回目となる高校生銃剣道の全国大会が、総合体育館が被災したため岩沼中学校体育館で行われました。全国各地から50チーム、選手・監督203名が参加し、団体戦や男女個人戦で高校生日本一を目指して熱い戦いが繰り広げられました。



全国高校生銃剣道大会

8/4

・法政大学多摩ボランティアセンター夏休み被災地支援プロジェクト

法政大学社会学部多摩ボランティアセンターによる被災した地域の生活・復興支援の一助として夏休み被災地支援プロジェクトが展開され、岩沼市でも北児童センターで活動を行っていただきました。汗をかきながら外で鬼ごっこをしたり、室内で勉強を教えたりと、若い力を生かし、子どもたちと元気いっぱい楽しく活動していました。



法政大学多摩ボランティアセンターによる夏休み被災地支援プロジェクト活動

8/6

・夢☆あこがれプロジェクト 夕暮れクラシックコンサート開催

東日本大震災からの復興を祈念するとともに、被災された方々に心の安らぎを得ていただくため、グリーンピア岩沼芝生広場で「夕暮れクラシックコンサート」を開催しました。約300人が参加し、夕暮れ時の幻想的な情景とグリーンピアの自然の中でリラックスしながら音楽を楽しんでいました。



夢☆あこがれプロジェクト 夕暮れクラシックコンサート

8/7

・第4回岩沼市震災復興会議 ※岩沼市震災復興計画グランドデザイン決定

市役所会議室で行われた第4回会議では、これまでの意見や提案等をもとに、震災復興会議としての「グランドデザイン」を被災地で最も早く決定。7つのリーディングプロジェクトを位置づけ、復興の柱として取り組むこととしました。



第4回岩沼市震災復興会議



復興のためのリーディングプロジェクト（※2）

① すみやかな仮設住宅の建設と暮らしの安定

- 岩沼市では、仮設住宅の整備および入居をいち早く実施。
- 仮設住宅で生活している方に対し「サポートセンター」などによる心のケア等のサポートを継続。

② 津波からの安全なまちづくり

- 津波の力を軽減させる多重防御として、国による防潮堤の整備、県による岬山岬海岸の整備の働きかけ、市道空港三軒茶屋線のかさ上げ等の取り組み。
- 東部地区から中央部や西部地区等へ迅速に避難できる安全な道路の確保。
- 地域の意見を十分踏まえた集団移転の検討。
- 内水の排水対策として、赤井江から太平洋への直接放流、岬山岬の浚渫、排水機場の増設、阿武隈川堤防の質的整備、五間堀川の拡幅整備等について関係機関への要望。

③ 農地の回復と農業の再生

- 農地の復旧に力を注ぐとともに、更なる農業振興を目指すこと。
- 地盤沈下対策を国へ積極的に働きかけること。
- 農業経営の大規模化や法人化等について、関係機関と連携して推進すること。

④ 自然共生・国際医療産業都市の整備

- あらゆる交通の結節点である岩沼市の特徴を最大限に活かして、新しい分野の企業誘致を含めた産業の復興を図ること。
- 高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、「自然共生・国際医療産業都市」を推進すること。

⑤ 自然エネルギーを活用した先端モデル都市

- 太陽光をはじめとする自然エネルギーを活用した自然共生都市を推進すること。

⑥ 津波よけ千年希望の丘の創造

- 津波の力を減衰させる津波よけ千年希望の丘を整備するとともに、この丘を含めたエリアをメモリアルパークとして整備を図ること。
- 千年希望の丘の整備等にあっては、諸外国、国内外の企業やNPO・NGOなどのペアリング支援（※3）により実現すること。

⑦ 文化的景観の保全と再生

- 岩沼市の歴史や文化を未来に継承していくため、農業・集落の優れた景観を保全、再生すること。

岩沼市震災復興計画グランドデザインを市のホームページで公表しています
このグランドデザインを、市のホームページでも公表しています。ぜひご覧ください。（アドレスhttp://www.city.iwanuma.miyagi.jp/）

関/震災復興推進室（内線528）

さらに住み良いまちを目指して

震災からの復興をいち早く進めるため、基本方針を踏まえて、グランドデザインが決定された。具現化するためのマスタープランも決定された。復興の指針の意図をもとに策定中です。復興のポイントとなる幾つかの項目をプロジェクトに位置付け、国県にも提出し、可能な支援を要望しています。医療関連産業などの誘致を進めるため、検討会を設け、広く有識者などの意見を広く力を求めることにしています。既に代表は、金澤一郎先生（前学術会議議長）にお引き受け願っています。地盤や津波被害に遭った所に企業は立地しないという指針もありました。被災地の復興という目的に沿って全力をあげたいと、被災地の復興に積極的に取り組んでいます。多くの人材を雇用し、先日記事のご列席の下、竣工入れ式を行った企業もあります。

農業の再生も重大な問題です。機械的被害を受けた農地、排水施設等、国県への早い対応を望みながら、がれき等の撤去、除菌なども多岐にわたる田圃整備ができる地域を少しでも多くしたいと思っています。住まいに關しては、集団移転が問題の一つ。地域の指針と各々検討中ですが、制度上の制約もあり考慮しています。市としては、いざという時の避難を念頭に多重防壁・千年希望の丘の造成を進め、安全性を高めたいと考えています。一日も早く元の岩沼を取り戻し、さらに住み良い岩沼を作っていければと思っています。

市長 井口 終明

岩沼市震災復興計画の概要

岩沼市震災復興計画を紹介します

「ふるさと岩沼の復興に向けて」

復興の理念

- 被災者の一日も早い生活の再建、心のケアと被災者の支援
- コミュニティを大切に集落再生
- 雇用の創出と活気のあるまち
- 自然エネルギーを活用した先端都市
- 歴史の宝庫千年丘陵、竹駒神社のまち、津波よけ千年希望の丘

計画期間

長期的な視点に立った基本理念を実現するため、復旧期・復興期・発展期を設定し、また、スピード感を持った各種事業への取り組みのため、計画期間は、平成23年度から29年度までの7年間とします。

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
復旧期	●	●	●	●	●	●	●
復興期		●	●	●	●	●	●
発展期			●	●	●	●	●
岩沼市総合計画 計画期間	●	●	●	●	●	●	●
次期総合計画 計画期間		●	●	●	●	●	●

広報いわぬま 2011.10月号 2

広報いわぬま 2011. 10月号 P2-3

岩沼市復興応援イベント「七夕の日の贈り物～神戸市民1万人の応援メッセージ」開催

足こぎ車椅子研究会と市の主催で、岩沼市民会館で岩沼市復興応援イベントを開催。このイベントは東日本大震災で被災した方に、神戸市から七夕の日の贈り物として“夢”“元気”“笑顔”を届けたいとの想いを込めて、16年前に阪神・淡路大震災を経験した神戸市長田区の皆さんからの応援メッセージの展示のほか、マジックショー、足こぎ車椅子ダンス、歌謡ショーが行われました。



岩沼市復興応援イベント「七夕の日の贈り物～神戸市民1万人の応援メッセージ」

8/10

震災復興計画素案に係る市民説明会開催

「震災復興計画素案に係る市民説明会」を総合体育館会議室で開催し、市民約50人が参加。市から震災復興計画の基本理念や計画期間、復興のためのリーディングプロジェクトに関する説明を行いました。参加者からは「千年希望の丘」や農地復旧、太陽光の利用などについて意見、提言などをいただきました。

市議会議員全員協議会において市震災復興計画・グランドデザインについて説明



震災復興計画素案に係る市民説明会

8/20

・いわぬま復興夏まつり開催

追悼、そして、市民が元気になるきっかけとして「いわぬま復興夏まつり」を市役所前広場で開催し、約26,000人の人出でにぎわいました。ステージイベント、地場産品市、模擬上棟式などのほか、高知県南国市の土佐女子高校書道部の皆さんが書いた復興へのメッセージの展示、山形県尾花沢市から市民訪問団による花笠踊りの披露や尾花沢スイカの試食など、たくさんの力をいただきました。



いわぬま復興夏まつり

8/22 ~ 24

・SUN (3) SUN (3)サマースクール開催

仮設住宅入居の小・中学生を対象に宮城教育大学の学生による「SUN (3) SUN (3)サマースクール」が総合体育館会議室で開催されました。3日間で延べ75人が参加し、夏休みのドリル・学習教材などについて子どもたちの質問に答えるなど学習を支援しました。



SUN (3) SUN (3)サマースクール

・バイデン米国副大統領が来県

バイデン米国副大統領が、米軍が震災の復旧支援活動を行った仙台空港を訪れ、記念スピーチを行いました。スピーチは仙台空港ターミナルビル2階の国際線出発ロビーの特設会場で行われ、村井宮城県知事をはじめ、井口市長など関係者約200人が参加しました。

バイデン副大統領はスピーチで、東日本大震災の被災地で米国が展開した「トモダチ作戦」の成果等をアピールし、「米国は皆さんのそばにいる」と話し、米政府による継続的な支援を表明しました。

震災の翌日の3月12日に、友好都市の米国デラウェア州ドーバー市に派遣予定であった中学生派遣団員9人も出席。バイデン副大統領の地元はデラウェア州ということもあり、あいさつの中で、岩沼の生徒たちを気遣ってくださり、また、「私の孫娘が歓迎しますよ」とデラウェア州への訪問を呼びかけてくださいました。



バイデン米国副大統領来県

・ヒューマン・ケア心の絆プロジェクト開催

震災で被災された方々を対象に、里の杜東仮設住宅集会所で開催。官民一体となったプロジェクトとしてメンタルケアを中心に実施しました。少しでも心の安らぎを提供するため、また、予防医療を目的に健康セミナーや子どもたちを対象に絵本でお話し会などが行われました。

・流出物の展示を終了

東日本大震災の津波により流失したアルバム、写真、賞状や位牌など、被災された方々にとって特別な思いのある大切な品を市でお預かりし、体育センターなどで展示してきました。

4月19日から展示を開始し、これまで合わせて16,255点あまりの思い出の品を引き渡してきましたが、8月31日をもって展示終了としました。

・川島隆太教授による放射能に関する講演会開催

放射能について正しい知識を持ち、健康で安全・安心に暮らしていただくため、9月7日、勤労者活動センターで「放射能に関する講演会」が開催されました。講師に東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授をお迎えし、講演していただきました。

講演会では、放射能に関する基本的な知識や、放射線被ばくによる人体への影響などを、図式等を使って分かりやすく説明していただきました。



川島隆太教授による放射能に関する講演会

9/10

・下水道の日：東日本大震災における下水道施設の被害状況と復旧について



▲ガスタンは浄化センターから1km以上も西に流されました(栗南浄化センター)



▲京復旧をし、下水の上澄みを塩素で消毒し、海へ放流しています(栗南浄化センター)



▲全壊した相野釜クリーンセンター



▲二野倉地区の様子



▲長岡クリーンセンターは被害がありませんでしたが、道路が液状化し、マンホールが隆起

2 農業集落 排水の状況

沿岸部にある相野釜処理場は、津波により建物本体が傾斜することの被害を受け機能停止しました。管路については、津波水区域のため被害調査は未着手ですが、処理区域内の対象戸数が壊滅状況となっており、復旧の見込みはありません。また、内陸部の長岡処理場は、施設自体には大きな被害はなく、通常運転を行っていますが、管路については、破損やたわみが見られ、被害状況は約17kmとなっています。復旧については、現在災害査定に向けて準備を進めています。災害査定が終了し次第順次、工事を発注し、復旧していきます。

3 二の倉排水場の状況

日本製紙株式会社岩沼工場の排水を維持管理している市の二の倉排水場は、海岸に近く、津波による大きな被害を受けました。排水場本体も壊滅的な被害を受け、機能停止しました。日本製紙岩沼工場の操業開始に向けて会社側と協力し、早期に主ポンプを稼働させ、排水処理を行うなど、復旧に努めており、工場も4月11日から操業を開始しています。なお、建物等の復旧も順次行っています。

節水にご協力を

この度の大地震に伴う大津波により、宮城県の流れ下排水最終処理場である「栗南浄化センター」が全壊し、完全復旧までは最低でも2年はかかる見通しです。市が管理する污水管路施設においても一部被災しており、一度に大量の排水が集中しますと、汚水があふれることがあります。

下水道を使用するにあたっては、ご家庭での洗濯やお風呂について節水に加えて排水時間帯を工夫するなど、ご協力をお願いします。

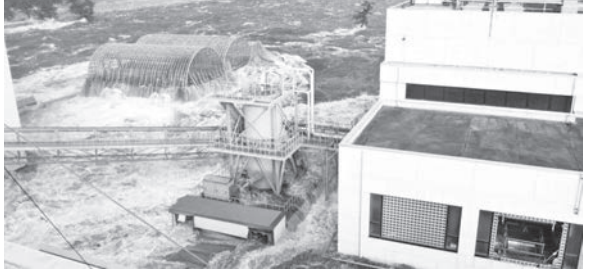
特に宿泊施設でのお風呂の使用やプールなど大量に水道を使用し、大量に排水する事業所等においては、排水時間帯をずらすことや水の使用回数を減らすなどの工夫により、極力節水にご協力ください。

問/下水道課(☎内線443)

▶9月10日は下水道の日

下水道 生きものすべてのいのちのわ
9月10日は「下水道の日」です

東日本大震災における下水道施設の被害状況と復旧について



▲津波に襲われる栗南浄化センター (写真提供：宮城県)

3月11日に発生した東日本大震災は各地で甚大な被害を引き起こしました。岩沼市の下水道施設も大きな被害を受け、特に沿岸部にある二の倉排水場や汚水・雨水排水のポンプ場などは大津波に襲われ、壊滅的な被害を受けました。これらの施設は被害直後より、安全・安心な生活環境の確保に向けて復旧作業を行っています。

1 阿武隈川下流流域下水道関連 公共下水道の状況

宮城県が管理する下水道処理施設、流域下水道の栗南浄化センターは、高さ7.8mの大津波に襲われ、管理棟の二階の床土40cmまで浸水したほか、すべての施設が津波にのみ込まれ、壊滅状態となりました。完全復旧まで2年程度かかる見通しで、現在は復旧し、処理場内において沈殿・消毒により簡易処理を行っているが復旧工事を進めている状況です。

また、市で管理する公共下水道の管路については調査が完了し、国の補助金の災害査定に向けた準備を進めています。津波浸水区域については未着手であり、確定はしていません。現在把握している被害状況は、マンホールの隆起や管路の破損、たわみなど、延長にして約3.2kmとなっています。



▲栗南浄化センター2階まで津波が押し寄せました (写真提供：宮城県)

広報いわぬま2011.9月号 4

広報いわぬま 2011.9月号 P4-5

9/11

・復興フェスティバル「がんばろう！宮城 in ABUKUMA」開催

東日本大震災から6カ月となる9月11日、追悼と復興を願い、追悼セレモニー、キャンドルナイト銀河鉄道の夜、花火大会などたくさんのイベントが阿武隈川河川敷公園で行われました。



復興フェスティバル「がんばろう！宮城 in ABUKUMA」

9/14

・東北フジパン竣工式挙行

平成23年3月29日に竣工式、同年4月1日より工場稼働の予定で準備を進めていましたが、東日本大震災の被災によりやむなく竣工式を延期。「必ずこの地で復旧復興する」との強い意志を早期に決定し、建設・機械メーカーの積極的な協力など、総力を挙げ工場とその設備の復旧に取り組んだ結果、震災からわずか半年となる9月14日に村井知事、井口市長出席のもと竣工式、10月1日から本格稼働するに至りました。



東北フジパン竣工

フジパン 仙台工場来月1日稼働

震災で被災した岩沼市のフジパン製菓大手のフジパングループ本社(名古屋)は18日、東日本大震災の復興支援として、被災地の復興に貢献する。被災地の復興に貢献する。被災地の復興に貢献する。

2011.9.20 河北新報

9/22

・川端達夫総務大臣来訪

川端達夫総務大臣が岩沼を訪問し、地盤沈下で排水不良となった相野釜地区と二野倉地区を視察しました。台風15号の影響により、道路等が冠水したため、視察先の変更を余儀なくされました。



川端総務大臣来訪

9/24

・東日本大震災復興祈願

平成23年秋季大祭・遷座記念祭(竹駒神社・～9月26日)

9/25

・岩沼市制施行40周年記念・震災復興祈念講演会～歴史に探る未来への希望～開催

岩沼藩開藩350年となる年に東日本大震災が起きたことから復興への取り組みを進めていくに当たり、歴史から復興へのヒントを得るために市民会館中ホールで開催し、約150人が来場しました。

岩沼は近年、津波の被害をほとんど受けていませんが、400年前の江戸時代初期の慶長の津波では大きな被害を受けたと言われており、これまで取り上げられることの少なかった津波にスポットが当てられました。

東北大学東北アジア研究センター長の平川教授が、仙台藩主伊達政宗が江戸時代初期の1616年に徳川家から謀反の疑いをかけられたときの話を題材に講演。政宗が万が一に備えて考えた仙台防衛構想に、慶長の津波での経験が反映され、また岩沼は当時重要拠点であったという見解を紹介しました。続いて同センターの蝦名教育研究支援者が、慶長の津波で被災した地域での復興事業を紹介。岩沼では、北上川の開発で知られる川村孫兵衛親子が塩を精製したり、津波除けと塩の精製に使う燃料を得るため、防潮林を植樹したりしたことなどを話されました。



東北大学 平川教授

・仙台空港国際線再開(全面再開)

9/27

・市震災復興計画マスタープラン策定

市震災復興計画マスタープランは、市震災復興計画ランドデザインを踏まえ、震災復興計画期間である今後7年間(平成23年～29年)の具体的な取組内容をまとめたものです。このマスタープランの内容を実行に移し、復興に向けて取り組むとともに、岩沼市のさらなる発展を目指していきます。

10/1

・屋外拡声子局を設置

災害から市民を守るため、東日本大震災により大きな被害を受けた東部地区について、まずは玉浦公民館敷地内に屋外拡声子局を設置し、10月1日から運用を開始しました。地震、津波、大雨などにより避難が必要となった場合の避難情報などを、この拡声子局を通して周辺にお住まいの方々に迅速に伝えることになっています。

設置個所

- ・平成22年度 北長谷公会堂
- ・平成23年度 玉浦公民館、矢野目地区中央集会所、寺島公会堂
- ・平成24年度 早股中集会所、根方公会堂、志賀地区集会所、早股上集会所、玉浦小学校、林公会堂、市民バス矢野目停留所付近、岩沼臨空・矢野目工業団地、下野郷下公会堂
- ・平成25年度 原公会堂、空港南公園、押分字水先地内

屋外拡声子局
設置

10/6

・みんなで笑顔！プロジェクト開催

東日本大震災後の心のケアの一環として、ストレスを軽減し、明日へのパワーを得ることを目的として、岩沼南小学校(1年生80人)で、ドラムカフェジャパン主催による「みんなで笑顔！プロジェクト」が行われました。



みんなで笑顔！プロジェクト

10/7

・ケニア副首相来訪

来日していたムサリア・ムダバディ・ケニア共和国副首相兼地方自治大臣が市民会館で行われた「岩沼市小・中学校音楽発表会」に訪れ、児童らの発表を鑑賞しました。ムダバディ副首相は勇気づける時の言葉「ハクナ・マタータ」を話してくださり、皆を勇気づけてくれました。



ケニア副首相来訪

10/8～10

・岐阜県大垣市からの支援

岐阜県大垣市が、玉浦小学校の児童と親を十万石まつりに招待してくださいました。

その後、「KIZUNA ミーティング」として岩沼小学校、岩沼南小学校、岩沼中学校、岩沼北中学校の4校が招待を受けたり、インターネットを使ってテレビ会議をしたりして、学校の取り組みを発表し、大垣市の児童・生徒たちと交流を図りました。

10/22

・西村雅彦さん復興支援で来訪

井本満氏のご配慮で俳優の西村雅彦さんが被災地を元気づけようと訪問し、仮設住宅をまわった後、市民会館で復興支援イベントを開催しました。イベントでは、西村さん主演の短編映画「ON THE WAY COMEDY」の中からコメディ2本を上映し、その後、詩の朗読や景品付きじゃんけん大会で励ましてくれました。



西村雅彦さん復興支援で来訪

・東日本大震災復興祈念 岩沼市制施行40周年記念「いわぬま健幸・産業まつり」開催

東日本大震災復興祈念、岩沼市制施行40周年記念として、「健幸まつり」「秋の収穫祭」「にこにこ保育展」「商工業市」「マイバッグペイント」の5つのイベントがハナトピア岩沼、勤労者活動センターを会場に、合同で行われました。(30日は引き続き秋の収穫祭を開催)



いわぬま健幸・産業まつり

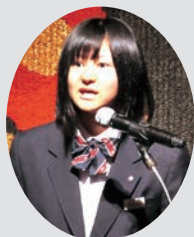
・岩沼市制施行40周年記念式典～愛と希望の復興～開催

11月3日の文化の日に、市民会館大ホールにおいて「岩沼市制施行40周年記念式典～愛と希望の復興～」が行われました。

岩沼市は昭和46年11月1日に市制施行し、「岩沼町」から「岩沼市」になり平成23年で40年を迎えました。また、この年の3月11日に未曾有の災害となった東日本大震災に見舞われたことから、震災復興を祈念する意味合いを持った記念式典を開催。村井嘉浩宮城県知事をはじめ、尾花沢市加藤市長、南国市藤村副市長、国会議員や県内市町長など多数のご来賓にご臨席いただき、1,000人近い市民が来場しました。

市長が「市民の皆さんと40周年を祝うことができ、大変うれしく思っています。先人たちはいろいろな災害に負けることなく今日の岩沼を築いてきました。先人の思いをしっかり受け継ぎ、大震災で犠牲となられた方々のためにも元の岩沼、それ以上の岩沼を築いていきたいと思えます」と式辞を述べたあと、引き続き、生涯現役市民賞の贈呈、市政功労者の表彰や団体、個人への感謝状の贈呈が行われました。

そのほか、岩沼市の40年の歩みを紹介する記念ビデオの上映や、「千年希望の丘」プロジェクトの推進宣言、中学生2名による震災復興祈念発表があり、最後に、仙台フィルハーモニー管弦楽団による記念コンサートがあり会場の皆さんと一緒に40周年をお祝いし、また震災からの復興を祈念しました。



高橋 若子さん

震災が教えてくれたこと

地球上に生まれたからには世界中が家族になる。そう教えてくれたのはこの震災でした。あらためて日本の強さと世界の絆を知ることができました。



渡邊 謙介さん

震災で学んだこと

人は一人では生きられない。人という字のように互いに助け合いながら辛い困難も乗り越えていけると実感しました。

11/9

・第1回自然共生・国際医療産業都市検討会開催

岩沼市震災復興計画において復興のためのリーディングプロジェクトの一つに掲げている「自然共生・国際医療産業都市の整備」に係る1回目の検討会を11月9日に東京都内の都道府県会館で開催しました。

第1回検討会では、国際医療福祉大学大学院長の金澤一郎氏を会長に、東京大学大学院教授の石川幹子氏を副会長に選任し、各委員からは、医療関連企業の誘致に関する意見や雇用の創出、自然エネルギーの活用方法等についてご意見をいただきました。



第1回自然共生・国際医療産業都市検討会

自然共生・国際医療産業都市検討会 委員名簿

(敬称略・50音順)

	氏名	所属
会長	金澤 一郎	国際医療福祉大学 大学院 院長 宮内庁皇室医務主管、元日本学術会議会長
副会長	石川 幹子	東京大学大学院工学系研究科教授 宮城県震災復興会議委員、岩沼市震災復興会議議長
委員	秋山 宏	東京大学名誉教授 元日本建築学会会長
委員	小豆畑 茂	(株)日立製作所 執行役専務
委員	家田 仁	東京大学大学院工学系研究科教授
委員	大坪 修	東都医療大学 学長
委員	加藤 久豊	(社)日本画像医療システム工業会 会長
委員	北澤 宏一	(独)科学技術振興機構理事長 東京大学名誉教授
委員	小宮山 宏	三菱総合研究所理事長、東京大学名誉教授 宮城県震災復興会議委員
委員	高橋 桂子	(独)海洋研究開発機構地球シミュレータセンター プログラムディレクター
委員	竹村公太郎	NPO日本水フォーラム理事

	氏名	所属
委員	田中 伸幸	宮城県立がんセンター研究所 がん先進治療開発研究部長
委員	久道 茂	日本医学会副会長・宮城県対がん協会会長 東北大学名誉教授
委員	渡辺 広之	(株)電通 ソーシャル・ソリューション局次長 兼 地球環境プロジェクト部長
オブザーバー	稲田 幸三	内閣官房東日本大震災復興対策本部 宮城県地対策本部 事務局次長
オブザーバー	佐原 康之	厚生労働省 医政局研究開発振興課長
オブザーバー	永田 昭彦	厚生労働省 東北厚生局 健康福祉部長
オブザーバー	寺家 克昌	経済産業省 東北経済産業局 地域経済部長
オブザーバー	川嶋 直樹	国土交通省 東北地方整備局 企画部長
オブザーバー	平泉 洋	宮城県経済商工観光部理事兼次長
オブザーバー	菅原 久吉	宮城県東京事務所長

12/4

・岩沼市制施行40周年記念 2011(第20回)いわぬまエアポートマラソン開催

岩沼市制施行40周年を記念し、陸上競技場を発着とするコースで行われました。東日本大震災の影響により、大会規模を縮小しての開催になりましたが、北は青森県、南は静岡県まで、「みんなの走りが復興の力に」をスローガンに1,083人が健脚を競いました。

また、長谷川理恵さんをゲストランナーとしてお招きし、記念大会に華を添えるとともに、岩沼市に元気を届けていただきました。



市制施行40周年記念 第20回いわぬまエアポートマラソン

12/6

・第2回自然共生・国際医療産業都市検討会開催

市の震災復興計画において、復興のためのリーディングプロジェクトの一つに掲げている「自然共生・国際医療産業都市の整備」に係る2回目の検討会を12月6日に市内のモンタナリゾートで開催しました。

今回の会議では、被災現場などを見学するとともに国際医療産業都市の核となる事業の誘致や誘致可能な医療関連産業などについてご意見をいただきました。

12/12

・「地域の絆が復興の力」講演会開催

石川久教授(淑徳大学コミュニティ政策学部)を講師に招き、総合福祉センターで講演会が開催されました。

講演会では、阪神・淡路大震災の復興の教訓を踏まえ、ボランティア活動やコミュニティの役割など具体的に講話され、「今こそ地域そして人々の“絆”を集結して、支えあう人々の“絆”に復興への力を求めたい」と話していました。



「地域の絆が復興の力」講演会

12/18

・響け復興の第九 みんなで歌う第九の会 第25回定期演奏会開催

東日本大震災で犠牲となられた方々を追悼し、復興への強い願いを込めた演奏会が市民会館大ホールで開催されました。



響け復興の第九 みんなで歌う第九の会第25回定期演奏会

12/19

・キャサリン・ジェンキンスさん玉浦小を慰問

被災地の子どもたちを応援しようと、イギリスのオペラ歌手として有名なキャサリン・ジェンキンスさんが玉浦小学校を訪問し、歌などをプレゼントしてくださいました。参加した玉浦小児童と玉浦中生徒らに「アヴェ・マリア」など2曲を披露。会場の皆と一緒にクリスマスソングも歌いました。



キャサリン・ジェンキンスさん

12/22

・岩沼市が環境未来都市[※]に選定される(全国11カ所)

岩沼市は、国の戦略プロジェクトである「環境未来都市」に選定され(全国で11都市(地域))、翌年1月18日、首相官邸において、野田佳彦首相から井口市長に選定証の授与が行われました。震災復興のプロジェクトであ



環境未来都市選定証授与

る「千年希望の丘」や「自然共生・国際医療産業都市」「自然再生エネルギーの導入」などの実現に向け、企業誘致・雇用創出をはじめ大きな効果が期待されます。

※環境未来都市とは

国の「新成長戦略」において、国家プロジェクトの一つに位置づけられている施策です。限られた都市・地域を「環境未来都市」として選定し、環境や超高齢化対策の面で成功事例を創出するとともに、国内外へ普及展開することで、需要拡大や雇用創出を目指そうとするものです。

12/23

・殉職者表彰式

東日本大震災において殉職された13名の方々を表彰する「岩沼市殉職者表彰式」が行われました。式では、消防団員6名、消防協力隊員2名、区長1名、市職員4名の13名のご遺族に、表彰状が贈呈されました。

はじめに、出席者全員で黙とうを捧げ、市長が「二度とこのような悲劇を繰り返さず、殉職された皆さんの郷土愛を受け止め、より良いふるさと岩沼の復興に全力を挙げます」と式辞を述べました。

続いて、遺族を代表して、消防団員の父を亡くされた菊地達哉さんが「遺族として、自分の命を落としてまでと悲しい気持ちもありますが、最期まで一人でも多くの住民を助けたいという思いで必死に避難誘導にあたった強い意志を誇りに思います。岩沼が愛と希望に満ちた復興を遂げることが犠牲となった皆さんに報いることにつながります。岩沼の復興を願っています」とあいさつしました。

犠牲となられた13名の方々は、震災当日強い使命感のもと任務に当たられ、多くの市民の生命を救っていただきました。

【殉職者】

消防団員6名、消防協力隊員2名、区長1名、市職員4名



殉職者表彰式

12/26

・第1回岩沼市防災会議開催

県内自治体で震災後初めての防災会議となる「第1回岩沼市防災会議」が開催されました。会議に先立ち、市長から委員30名に委嘱状の交付を行い、その後、各委員から今回の震災対応とともに課題点などの意見が出され、災害時に即応できる地域防災計画の策定を進めていくことの確認がされました。なお、委員30名のうち、女性委員5名が委嘱されました。



第1回岩沼市防災会議

岩沼市防災会議委員

敬称略

所属機関名	役職
岩沼市	市長
東北農政局 企画調整室	調整官
東北地方整備局 仙台河川国道事務所	所長
東京航空局 仙台空港事務所	空港長
海上保安庁 宮城海上保安部	部長
陸上自衛隊 第22普通科連隊	重迫撃砲中隊長
宮城県 仙台保健福祉事務所	所長
宮城県 仙台地方振興事務所	所長
宮城県 亘理農業改良普及センター	所長
宮城県 仙台土木事務所	所長

所属機関名	役職
岩沼警察署	署長
東北電力(株) 岩沼営業所	所長
東日本旅客鉄道(株) 岩沼駅	駅長
NTT 東日本 宮城支店	設備部長
株式会社ミヤコーバス名取営業所	所長
岩沼市医師会	会長
岩沼市婦人防火クラブ連絡協議会	会長
岩沼市民生委員・児童委員	委員
岩沼市	副市長
岩沼市教育委員会	教育長

所属機関名	役職
岩沼市総務部	部長
岩沼市健康福祉部	部長
岩沼市市民経済部	部長
岩沼市建設部	部長
岩沼市教育委員会	教育次長
岩沼市消防本部	消防長
岩沼市消防団	消防団長
岩沼市立西保育所	所長
岩沼市南部地区総合福祉プラザ	館長
岩沼市総務部防災課	課長

1/19

・第3回自然共生・国際医療産業都市検討会開催

会議では、市民の健康づくりに寄与できるような整備手法の検討や集団移転地・市内の企業との連携の在り方などについてご意見をいただきました。また、会議の後半には村井宮城県知事にも出席いただき、県としても協力する旨のあいさつをいただきました。



第3回自然共生・国際医療産業都市検討会

1/29

・平成23年度岩沼市防災講演会開催

市民会館中ホールで、講師に東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授の今村文彦氏をお迎えし、「東日本大震災を考える～津波被害の特徴と教訓～」と題し震災後初めての防災講演会を開催し、約250人の市民が参加しました。

講演では、東日本大震災がどのような状況で起きたのか、地震が発生する仕組みと津波の動き、津波被害の特徴やその被害について説明していただいた後、復興に向けた課題などをお話いただきました。

復興への課題としては、災害前後の社会システムを比較し、災害に強い社会をつくること、そのためには、防潮林や道路のかさ上げなどの物理的な部分だけではなく、情報やそれを管理する人、その重要性を認識する人がいることが必要であり、今回の大震災での経験を継承することが大切と訴えました。



今村文彦教授



平成23年度岩沼市防災講演会

・仙台湾南部海岸堤防復旧着工式開催

東北地方太平洋沖地震の影響により発生した津波で海岸堤防等に大きな被害を受けた仙台湾南部海岸で、その復旧に向けて、「仙台湾南部海岸 堤防復旧着工式」が開催されました。着工式は沿岸地域の1日も早い復興と、被災された地域の方々が安全で安心して日々の生活を取り戻すことができるように祈念して、宮城県、沿岸5市町、東北地方整備局の共催で実施され、閉上・北釜海岸の北釜工区において、関係者約70人を招いて式典が執り行われました。

1/31

・第1回復興交付金事業計画提出

集団移転事業や災害公営住宅事業に対する国からの復興交付金の、第1回交付分として、約22億円の交付を受けました。

【復興交付金が交付される主な事業】

- ・ 防災集団移転促進事業（調査設計費・用地買収費）
- ・ 災害公営住宅事業（調査設計費・用地買収費）
- ・ 自然共生・国際医療産業都市推進事業（調査設計費）
- ・ 公共下水道事業（調査設計費）
- ・ 埋蔵文化財発掘調査事業（調査費）

2/3

・尾花沢市へ市職員雪かきボランティアを派遣

東日本大震災の際に多くのご支援をいただいた山形県尾花沢市に「豪雪ボランティア」として岩沼市職員19人が派遣され、尾花沢市内のボランティアなど約120人とともに、一人暮らしの高齢者宅の除雪作業を行いました。

参加した職員は、家の2階まで達するほどに積もった雪に悪戦苦闘しながらも、尾花沢市の方々への感謝の気持ちを込めて、懸命に作業に取り組みました。



尾花沢市雪かきボランティア

2/17

・第1回岩沼市復興整備協議会開催

岩沼市を含む県内14市町において復興整備協議会が発足し、県庁において設立合同会議が開催されました。協議会では、集団移転促進事業に関する許認可等について協議が行われました。

【復興整備協議会について】

被災市町村長が会長となり、知事や国の関係機関の長が構成員となって、復興整備計画およびその実施に関し必要な事項を協議する組織です。復興整備計画を作成することにより、市街化調整区域における開発許可や農地転用許可の手続などに係る特例措置などが適用されます。また、事業実施に必要な許可手続のワンストップ化により、通常の手続よりも迅速な処理が可能となります。

2/29・3/1

・ゲーデ兄弟弦楽トリオによる被災地慰問ツアー

前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターのダニエル・ゲーデ氏が率いる「ゲーデ兄弟弦楽トリオ」によるコンサートが、市内4小学校と玉浦中学校で行われました。



ゲーデ兄弟弦楽トリオ

・東日本大震災岩沼市追悼式開催

市民会館で「東日本大震災岩沼市追悼式」が無宗教献花方式で執り行われました。東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご遺族をはじめ、姉妹都市や友好都市などからのご来賓、市民の方々など約1,500人が参列しました。

式では、はじめに、市長が祭壇に向けて、犠牲となられた196名の芳名簿を奉獻。「1日も早い復興こそが、犠牲となられた方々、ご遺族、被災者、支援いただいた国内外すべての皆さまの共通の願いです。その思いに応えることが生きる私たちの責務であり、恩返しです」と式辞を述べました。

政府主催の追悼式の模様も会場スクリーンに生中継され、東日本大震災発生の午後2時46分に合わせ、黙とうを捧げました。野田佳彦首相の追悼の辞、天皇陛下のおことばを順に放映されました。

遺族代表のあいさつを経て、最後に、祭壇前に設けられた献花台に、参列者一人ひとりが順番に白い菊の花を献花し、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしました。

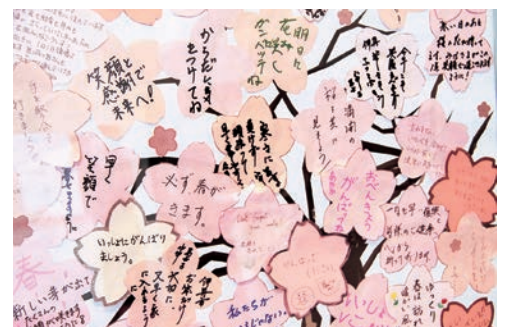
式には、震災後いち早く国際緊急援助隊を派遣していただいた南アフリカ共和国の駐日特命全権大使モハウ・ペコ氏や物心両面のご支援をいただいた俳優の西村雅彦氏にも参列していただきました。



東日本大震災岩沼市追悼式



南アフリカ共和国駐日特命全権大使
モハウ・ペコ氏



兵庫県伊丹市からのメッセージ

3/12

・第13回中学生ドーバー市訪問団出発

第13回ドーバー市訪問団(中学生13人、引率2人)が、3月12日～23日の日程で、友好都市アメリカ合衆国デラウェア州ドーバー市を訪問しました。

平成23年3月、第12回ドーバー市訪問団が出発前日に起こった東日本大震災により、同市を訪問することができず、平成22年3月以来の訪問となりました。ホームステイや文化交流を通して、団員は友好の絆を深めてきました。

13回目となるドーバー市訪問は、東日本大震災の影響から訪問できなかった第12回訪問団のうちの生徒3名も一緒に参加することができました。震災の時には、アメリカ空軍が「トモダチ作戦」と題した支援活動の一環として仙台空港に赴き、支援物資の輸送や瓦礫撤去などの援助をいただきました。また、デラウェア州からの義援金や励ましのお手紙なども多数いただきました。今回は、そのお礼の意味を込めての訪問でもありました。



第13回中学生ドーバー市訪問

3/17

・復興祈念植樹式開催

仙台空港臨空公園で「東日本大震災復興祈念植樹式」が行われました。この植樹式は兵庫県伊丹市により企画され、岩沼市と名取市の震災復興を祈念し、あわせて大規模な災害救助活動を行っていただいた米国への感謝の意を表すものとして開催されました。

植樹式では桜の苗木2本が植樹されました。この苗木は、日米友好の桜として100年前に日本から米国に贈られた苗木の子孫樹で、苗木の台木は伊丹市産のものです。

式には、藤原伊丹市長、井口岩沼市長はじめ、ジョン・リース米国総領事、佐々木名取市長など関係者が出席し、日米友好の桜を震災復興のシンボルにという想いのもと、大切に植樹されました。



東日本大震災復興祈念植樹式

3/23

・岩沼市復興整備協議会で防災集団移転促進事業(国土交通大臣)および農地転用(農林水産大臣)の同意

集団移転を円滑に実施するため、農地転用等の手続きを一元化し迅速な対応が可能となる復興整備計画について、3月23日に復興整備協議会を開催し、国土交通大臣と農林水産大臣から、防災集団移転促進事業への同意とそれに伴う農地転用に関する同意をいただきました。

・復興整備計画を公表

3月23日に開催した復興整備協議会において、国土交通大臣と農林水産大臣から、防災集団移転促進事業への同意とそれに伴う農地転用に関する同意をいただいた復興整備計画を3月30日付けで公表しました。これにより、集団移転事業に着手するための法的手続きが整いました。

・市行政組織改編

東日本大震災からの復旧・復興事業のさらなる促進を図るため、2課1室を新設しました。

○新設

- 【復興整備課】
- 【健康産業政策課】
- 【被災者生活支援室】

○変更

- 【復興推進課】(震災復興推進室から名称変更)

・第2回復興交付金事業計画提出

防災集団移転促進事業や市道沿線盛土事業、がけ地近接等危険住宅移転事業等に係る第2回交付分として、約150億円の交付を受けました。

【復興交付金が交付される主な事業】

- ・防災集団移転促進事業(工事費・用地買収費)
- ・災害公営住宅事業(工事費・用地買収費)
- ・市道沿線盛土事業(調査設計費)
- ・避難路整備事業(調査設計費)
- ・がけ地近接等危険住宅移転事業(測量設計費)

・災害廃棄物処理業務〔巨理名取ブロック(岩沼処理区)〕焼却炉火入れ式

4月17日、押分字須加原地内で災害廃棄物処理業務(巨理名取ブロック(岩沼処理区))焼却炉3基の「火入れ式」が行われました。この施設は、東日本大震災で発生した岩沼市域のがれき等の災害廃棄物を、選別・破碎・焼却等の中間処理を経て再資源化するものです。

なお、この施設は平成25年10月19日まで稼働しました。



完成した焼却炉



災害廃棄物処理業務焼却炉火入れ式

被災者「よかった」「浸水が不安」

復興整備協議会では、被災者から「よかったです」「浸水が不安です」といった声が多く聞かれました。また、被災者からは「避難先で生活が楽になりました」といった声も聞かれました。

集団移転初の承認

岩沼、石巻、510世帯、生活改善へ

復興整備協議会では、被災者から「よかったです」「浸水が不安です」といった声が多く聞かれました。また、被災者からは「避難先で生活が楽になりました」といった声も聞かれました。

石巻、塩釜の特認

復興整備協議会では、被災者から「よかったです」「浸水が不安です」といった声が多く聞かれました。また、被災者からは「避難先で生活が楽になりました」といった声も聞かれました。

地域ごと進捗状況に差

復興整備協議会では、被災者から「よかったです」「浸水が不安です」といった声が多く聞かれました。また、被災者からは「避難先で生活が楽になりました」といった声も聞かれました。

2012.3.24 産経新聞

4/29

・仙台空港臨空公園がオープン

県道仙台空港線北側に、仙台空港に隣接し飛行機の離発着を見ることができる「仙台空港臨空公園」が、4月29日にオープンしました。この公園は、空港周辺まちづくりの一環として宮城県が整備を行ったもので、平成23年4月に供用開始の予定でしたが、東日本大震災の影響により延期していました。

空港を展望できる小高い丘をはじめ、子どもたちがみんなで楽しく滑ることができるワイドスライダーや健康器具などを設置し、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけます。また、東日本大震災復興祈念植樹式において、兵庫県伊丹市から寄贈された桜の木をはじめ、緑地が多い公園となっています。



仙台空港臨空公園オープン

5/11

・いわぬま臨空メガソーラー事業プロポーザル募集開始

5/22

・岩沼市復興整備協議会で防災集団移転促進事業の開発行為(宮城県知事)の同意

東日本大震災に伴う集団移転先である玉浦西地区を造成・整備するに当たり、必要となる開発行為について、復興整備協議会で宮城県知事の同意を得ました。

5/26

・みんなでつくろう！「千年希望の丘」！！～〈実証実験〉岩沼市空港南公園植樹祭～を開催

「千年希望の丘」の創造に向けた試験的な取り組みとして、矢野目臨空工業団地内の空港南公園に、高さ4m、大きさ2,000㎡の丘を造成。植物生態学者の宮脇昭横浜国立大学名誉教授指導のもと植樹を行いました。当日は、家族連れを中心に市内外から約1,000名が参加。参加者一人ひとりの想いを託した20種約6,000本の苗木が植えられました。「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」を立ち上げた細川護熙元首相をはじめ、「千年希望の丘」に賛同する国会議員や県議会議員、女優でNEWS ZEROのキャスター



森の防潮堤へ第一歩

岩沼市で 市民1000人 苗木植える 植樹祭

東日本大震災の津波被害を受けた岩沼市が、これを踏襲して人工的に造った丘に木を植えて「森の防潮堤」を通るため、市道南公園(同市空港南)で植樹祭を開催し、参加した市民約1000人がクマノキやカシ、ヤマクラなど18種類の約6000本の苗木を次々植えた。

森の防潮堤実現に向け、岩沼市が先手を打った実証実験で、岩手公園に市費1億5千万円を投じて造成した約4000㎡の丘は、防潮堤の第一歩として、同市は、土質の一部には市で、一部は民間企業から調達する苗木を、出た廃本コンクリート片などの瓦礫を混入して土質を強化し、十分な強度があることを確認したうえで、植樹祭を開催している。

復興計画で「千年希望の丘」と名づけた防潮堤を築かせたい考え、井口岩沼市長は「これをきっかけとして、防災意識を高めたい」と話す。

参加した市内の市民約1000人は、防潮堤の第一歩として、同市は、土質の一部には市で、一部は民間企業から調達する苗木を、出た廃本コンクリート片などの瓦礫を混入して土質を強化し、十分な強度があることを確認したうえで、植樹祭を開催している。



千年希望の丘実証実験「岩沼市空港南公園植樹祭」

2012.5.27 毎日新聞

でもある桐谷美玲さんなども参加し、活気に満ちた植樹祭となりました。

植樹に先立ち、市長が「がれきの活用は、被災者が生活していた証を後世に伝える役割を持つ。津波から守ってくれるしっかりとした丘を造り、将来の人たちにバトンタッチしていきたい。岩沼の千年希望の丘ではあるが、日本の千年希望の丘にしていきたい」とあいさつ。宮脇教授からは、苗木の持ち方や、土を掘り下げる深さ、苗木同士の間隔などのほか、皆で苗木の名前を繰り返すことで、その名前を覚えるというユニークな指導も行われました。

5/30

・復興整備計画(第1回変更)を公表

5月22日の岩沼市復興整備協議会において、防災集団移転促進事業の開発行為(宮城県知事)の同意を得たことにより、当該事業を盛り込んだ岩沼市復興整備計画(第1回変更)を公表しました。

6/2

・1万本のひまわりの花を咲かせよう～復興の種まき会～を開催

矢野目連合町内会と市の協働で「1万本のひまわりの花を咲かせよう～復興の種まき会～」が仙台空港臨空公園周辺で行われました。矢野目連合町内会の皆さんや市民など約200人が参加し、心を込めて種をまきました。4月にオープンした同公園には、連日多くの方々が訪れていますが、公園周辺にひまわりの花を植えることで、復旧・復興に支援していただいた多くの方々に感謝のメッセージを表したいと企画されました。盛夏には、黄色い大輪のひまわりが咲きました。



1万本のひまわりの花を咲かせよう～復興の種まき会～



満開になったひまわり

6/11

・玉浦西地区まちづくり検討委員会開催(会長 尚絅学院大学教授 あるたきまこと 阿留多伎真人 氏)

※集団移転対象の6地区代表者を含む市民らで組織

東日本大震災に伴う集団移転先である玉浦西地区のまちづくりについて、総合的に検討するため、学識経験者、集団移転対象地区の市民および集団移転先周辺地区の市民による「玉浦西地区まちづくり検討委員会」を設置しました。

移転地は、既存区画整理地の三軒茶屋西地区とその西側に隣接し新たに造成する玉浦西地区。玉浦西地区は8月中に造成に着工し、25年度末には移転が開始できるように計画されました。「玉浦西地区まちづくり検討委員会」は、移転地で生活する方やその周辺にお住まいの方の想いを反映することが重要との考えから、沿岸6地区からは各地区3人、周辺にお住まいの方3人、有識者2人の計23人で構成。



玉浦西地区まちづくり検討委員会

まちづくりのヒントや助言をいただくアドバイザー3人を加えて、平成25年11月25日まで28回にわたり検討を重ねました。

玉浦西地区まちづくり検討委員会構成メンバー

■委員(23名)

区分	氏名	所属	区分	氏名	所属
学識 経験者	阿留多伎 真人	尚絅学院大学教授	集団移転対象地区の市民	菊地 幸一	長谷釜地区
	福屋 粧子	東北工業大学講師		斎藤 洋子	
集団移転対象地区の市民	中川 勝義 桜井 よしみ 桜井 理恵	相野釜地区		菊地 義信	
				菅原 栄	
	佐藤 勲 ^{※3} 佐藤 和夫 ^{※3} 佐藤 清子 ^{※3} 佐藤 武志 ^{※3} 大内 貞雄 ^{※3}	藤曽根地区		浅野 公子	蒲崎地区
				森 功	
				菅原 一夫 ^{※2}	新浜地区
				森 博 ^{※2}	
				菅原 真奈美 ^{※2}	
	森 真弓 ^{※2}				
	齋 健二 ^{※1} 小林 昌代 菊地 康志	二野倉地区		伊藤 喜美雄	集団移転 先周辺地 区の市民
			加藤 敬三		
熊谷 慶一					

※1 二野倉地区の代表は、菊地久義委員から齋健二委員に交代(第13回会議より)
 ※2 新浜地区の代表は、菅原一夫委員から森博委員に、菅原真奈美委員から森真弓委員に交代(第15回会議より)
 ※3 藤曽根地区の代表は、佐藤勲委員から佐藤和夫委員に、佐藤武志委員から大内貞雄委員に交代(第16回会議より)

■アドバイザー(3名)

- 石川 幹子: 中央大学理工学部人間総合理工学科 教授(東京大学名誉教授)
- 小野田 泰明: 東北大学大学院 建築・社会環境工学科学科科長
- 三部 佳英: (財)宮城県建築住宅センター 理事長

6/28

・平野達男復興大臣来訪
 平野復興大臣らが、仮設住宅、相野釜地区、玉浦西地区等の視察を行い、岩沼市役所において市長との意見交換を行いました。

6/29

・いわぬま臨空メガソーラー事業実施企業体を決定

7/2

・第8回東京北京フォーラム
 第8回東京・北京フォーラムの分科会「地方対話」に全国市長会を代表して井口市長がパネリストとして参加しました。日本側と中国側双方から被災事例と復旧復興の取り組み状況について紹介し、来場者も交えて意見交換を行いました。

東日本大震災の被災地で、集団移転事業が動き出した。津波に襲われた沿岸部の集落が安全な内部や高台に移転する。中でも宮城県岩沼市は県内で初めて移転先の開拓許可を受け、8月にも宅地造成に着手する。市の取り組みは、まだ住民の合意形成を進める他の自治体には先行例となる。先例を学ぶ岩沼市のまちづくりの動きを追った。

集団移転、先頭走る宮城・岩沼

列島追跡

市、戦略的な街づくり

委員が開かれた。この日の議題は、移転する公共施設への住居の要望をどうやって集約するか。集会所や公園が約4000戸の移転先を確保する。この日の議題は、移転する公共施設への住居の要望をどうやって集約するか。集会所や公園が約4000戸の移転先を確保する。

被災者の負担を軽減するため、このため市は、早く合が農家だ。「職住分離」が意図して用地決定に動いた。昨年11月には移転先の地味な小谷。岩沼市の動きは、移転先を確保するための。岩沼市の動きは、移転先を確保するための。岩沼市の動きは、移転先を確保するための。

2012.7.2 日本経済新聞



平野復興大臣来訪



第8回東京北京フォーラム

7/15

・仙台フィルマイタウンコンサート開催

毎年岩沼市では、市民会館を会場に仙台フィルハーモニー管弦楽団により、日本の歌、ディズニーの歌、本格的なクラシックに至るまで、親しみやすい、たくさんの楽曲を演奏いただき、多くの市民から好評を得ています。震災以降も、その素晴らしい演奏で復興への希望の音楽を市民に届けています。

7/27

・岩沼市議会の議決により、玉浦西地区の用地買収契約および用地造成工事契約締結

8/5

・玉浦西地区造成工事起工式開式

被災地のトップランナーとして、市の防災集団移転促進事業がスタートしました。

市内押分字新筒下地内で行われた起工式には、平野復興大臣をはじめ関係者約300人が出席しました。

式では、市長の式辞、平野復興大臣、三浦宮城県副知事、高橋市議会議長の祝辞に続いて、市長らがくわ入れを行いました。

また、集団移転代表者として玉浦中学校3年生の猪股祐那さんから「新たな一歩」と題して、ふるさと6地区や新たなまちへの想いを発表していただきました。

工事は、市内押分字新筒下の現況農地19.6haに一部地盤改良を実施した上で平成25年7月末までに盛土造成を行った後、道路や公園をはじめとする公共施設などを整備した上で、個人住宅の建設に着手し、平成25年度末に移転を開始していただく予定です。



玉浦西地区造成工事起工式



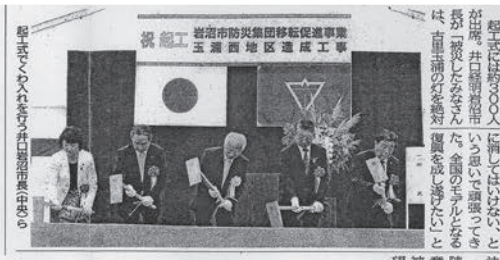
玉浦西地区造成地

集団移転事業

第1号岩沼で起工

玉浦西 14年春入居目指す

東日本大震災被災した岩沼市船部の被災者移転促進事業として、被災者移転促進事業の起工式が、同日、同市の船部地区で行われた。被災者移転促進事業の起工式が、同日、同市の船部地区で行われた。被災者移転促進事業の起工式が、同日、同市の船部地区で行われた。



2012.8.6 読売新聞

集団移転「新たな一歩」

岩沼 被災地のトップ切り起工

岩沼市は5日、被災地の「成」事業を来年7月までに入居開始を目指す。玉浦西地区の造成工事の起工式を行った。造成地の地権者も6地区区長ら関係者約70人が出席する中、移転する被災者を代表し、市玉浦西3年の猪股祐那さんが「新たな一歩」を踏み出す思いを語り、市長は「被災地のトップ切り」として、モラルを重んじてほしいと述べた。地権者が「新たな一歩」を踏み出す思いを語り、市長は「被災地のトップ切り」として、モラルを重んじてほしいと述べた。



2012.8.6 河北新報

集団移転地造成 岩沼で工事着手

被災地で初

東日本大震災の津波で被災した船部6地区の集団移転を準備している岩沼市は5日、被災地で初めて移転先の造成工事を始めた。来年度に移転を始める予定の集団移転の対象は、船部6地区、二野倉、長谷、新浜、新浜の6地区。市は、海岸から、三野倉、隣り合う玉浦西、三野倉、西の地区の約200戸が移転を予定している。



2012.8.6 朝日新聞

被災者から移転促進の要望が出始めた昨年5月以降、意見交換は40回以上上った。初めに集団移転を求めた長谷地区町内会長の猪地一さん(88)は「市が集団移転の情報を多く示し、移転先の確保に早く動いた」と話す。移転先の用地買収もスムーズに進んだ。市は昨年11月、震災前の生活圏と重なる玉浦西、三野倉、西の地区の約200戸が移転を予定している。

8/8

第10回日米市長交流会議

全国市長会と米国市長会の共催で「第10回日米市長交流会議」が全国都市会館(東京都千代田区)で開催されました。会議には、森全国市長会会長をはじめ、副会長の井口岩沼市長らが、米国市長会のスコット・スミス・メサ市長らと「都市と防災とまちづくり」をテーマに討議を行いました。事例発表後の自由討議で井口市長は「自らの命は自ら守るとする自助の精神を住民に根付かせることも必要だ」と発言。東日本大震災を踏まえた情報提供の在り方や災害対応について、活発かつ熱心な討議が行われました。



第10回日米市長交流会議

8/20

南国市との災害時相互応援協定を締結

岩沼市役所大会議室において橋詰南国市長をお迎えし、災害時相互応援協定が締結されました。

東日本大震災のように広範囲に渡って被害を及ぼす災害発生時には、近隣の市町村などが同様に甚大な被害を受ける可能性が高く、互いに支援を行うことが難しくなることから、復旧・復興に当たっては被害を免れた遠方の市町村からの支援・協力が不可欠となります。

南国市とは昭和48年の姉妹都市締結以降、各種交流事業などを通じながら、お互いに友好関係を深めており、この協定は今後の両市の防災対策において、大きな役割を果たすものと期待されます。



南国市との災害時相互応援協定締結

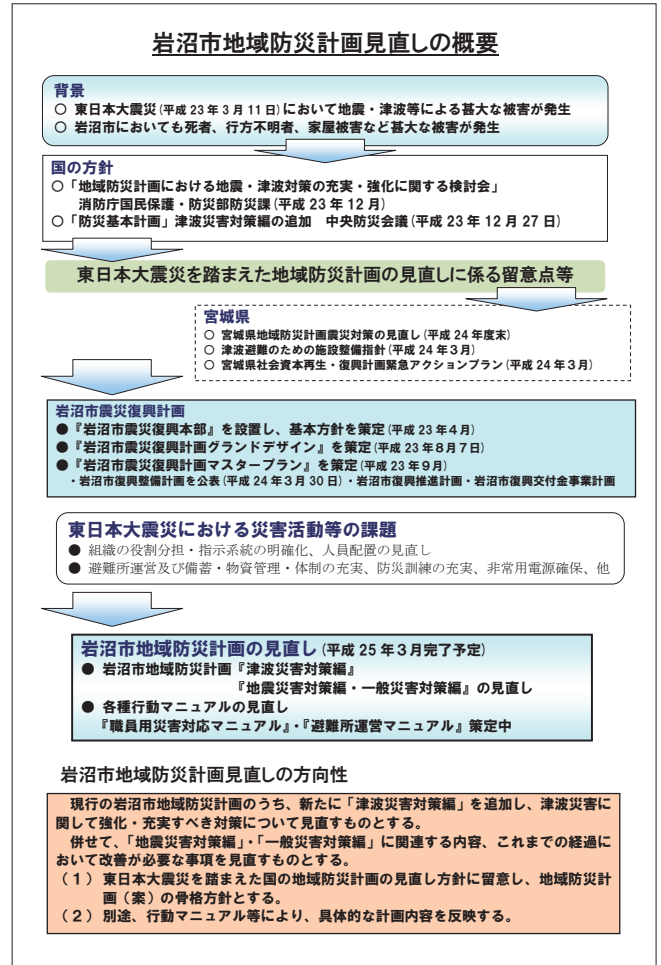
・第2回岩沼市防災会議開催

岩沼市役所大会議室にて、「第2回岩沼市防災会議」が開催されました。

会議では、今後の岩沼市地域防災計画の見直しについての概要を説明し、出席された関係各機関などからのご意見をいただきながら見直し内容についての審議が行われました。



第2回岩沼市防災会議



・いわぬま復興夏まつり開催

岩沼市役所前広場などを会場に、「いわぬま復興夏まつり」が開催されました。

当日は好天の中、東京都世田谷区にある駒澤大学高等学校チアリーディング部による演技や尾花沢市の皆さんによる花笠踊りなどの多彩なステージイベントが繰り広げられました。

また、尾花沢市や南国市による物産販売・市民などによる出店も立ち並び、大勢の皆さんが来場し、楽しんでいました。



東京都駒沢高校チアリーディング部

・津波を想定した避難訓練開催

「防災の日」の9月1日、市内東部地区4,700人を対象として、市主催・東北大学災害科学国際研究所指導のもと、震災後初めてとなる「津波を想定した避難訓練」が実施され、玉浦小・中学校の児童生徒を含む市民をはじめ、企業関係者、国、県、関係機関など約1,500人が訓練に参加しました。

当日は、第1部として避難訓練、第2部では玉浦中学校を会場に防災イベントが行われました。

「9月1日午前10時、宮城県沖を震源とする強い地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは9.0、市で震度6強を観測。宮城県沖では高さ約10メートルの津波が観測されたことから、宮城県沿岸部に大津波警報が発表された」という想定のもと、情報伝達、住民避難、避難所運営・初動対応の各訓練が実施されました。

訓練では、市役所1階に災害対策本部が設置され、本部会議後速やかに井口本部長から沿岸部一帯に屋外拡声子局やエフエムいわぬまによる緊急放送を使って避難指示を発令。新矢野目橋、仙台東部道路3カ所、玉浦

中学校の計5カ所を避難場所に指定するとともに、市職員により避難を周知する広報班、救護班、避難所班などに活動を指示し、関係機関と連携を図りながら初動対応などを実施しました。

参加した方々は、避難場所に迅速に避難する方が多く、皆真剣に訓練に参加していました。

今回の訓練は、東北大学災害科学国際研究所(所長:平川 新 教授)の指導のもと行われたもので、訓練の成果をしっかりと検証しながら地域防災計画や津波避難訓練計画の策定に際しての参考に資するとともに、津波に対する防災・減災体制の確立と市民による防災意識の一層の向上を図っていくこととしています。

第2部の防災イベントとして、玉浦中学校では避難所を想定した炊き出しが行われたほか、防災関連商品の紹介やパネル展示するブースが設けられ、また、防災体操などのステージアトラクションもあり、参加者は皆、防災について関心を深めていました。

岩
沼
市

津波避難訓練を 実施します

訓練当日に、
サイレンを吹鳴します。
災害と間違わないように
ご注意ください。

平成24年9月1日(土) 10時~13時
雨天決行(荒天中止)

●訓練当日、報道機関や関係者による取材・撮影を予定しております。あらかじめご了承ください。
●避難場所では、到着した時刻などをご記入いただくアンケート調査を行います。ご協力をお願いします。

1部 津波避難訓練 時間/10時~

津波を想定した避難訓練をおこないます。サイレンや屋外拡声器、エフエムいわぬまから避難情報が流れましたら、下記の避難場所を参考にそれぞれ避難してください。

1 「矢野目バイパス」の新矢野目橋付近



2 「玉浦中学校」校舎



3 東部道路と市道本町早股線、前條線と浦條線の各交差点



2部 防災イベント 時間/10時30分~13時、場所/玉浦中学校体育館

避難訓練の後におこなわれる防災イベントでは、自衛隊による炊き出しや協賛企業各社による防災グッズの展示、市民団体による参加型ブースなど、楽しみながら防災に役立つイベントを実施します。

※1部で玉浦中学校以外の場所へ避難された方は、イベント会場の玉浦中学校までバスによる送迎を行います。
※訓練に参加される方は、必ず上履き(スリッパなど)を持参の上、避難していただくようお願いいたします。
※一般駐車場は、玉浦小学校校庭をご利用ください。

お問い合わせ 岩沼市 総務部 防災課 ☎0223-22-1111(代) 内線542

主催/岩沼市 共催/カケアガレ日本企画委員会 協力/東北大学災害科学国際研究所、河北新報社、陸上自衛隊、NEXCO東日本、エフエムいわぬま 後援/宮城県、復興庁宮城復興局、国土交通省東北地方整備局 協賛/企業各社

津波を想定した避難訓練



避難する玉浦小学校児童



東部道路避難階段

・玉浦西地区まちづくり検討委員会から、まちづくりの方針および土地利用計画を市長へ報告

本市の集団移転先である玉浦西地区のまちづくりについて総合的に検討を行うために、被災集落(相野釜、藤曾根、二野倉、長谷釜、蒲崎、新浜)の代表者、玉浦西地区の周辺住民と学識経験者を委員とする玉浦西地区まちづくり検討委員会からまちづくりの方針と土地利用計画が、市長に報告されました。

報告に当たり、阿留多伎委員長は「集団移転により玉浦西地区で生活再建する被災者の想いや周辺地区とのつながりを考慮したまちづくりなどを整備に反映できるよう、9回の会議を重ねてきました。市において十分検討の上、玉浦西地区の整備に取り組み、1日も早い移転を遂げられるよう期待します」と述べ、それを受け市長が「この報告をもとに具体的なまちづくりを進めていきます。財源などの問題はありますが、いただいた内容をしっかりと受け止めて進めていきたい」と話しました。



玉浦西地区まちづくり検討委員会



2012.9.21
朝日新聞

・秋田県羽後町から復興支援ボランティアが訪問

秋田県羽後町 JA 婦人部ら 72 名が被災地への支援の一環として、岩沼を訪れました。復興状況についての研修後に羽後町産の新米を仮設住宅入居者へ配布するとともに、仮設住宅入居者とお茶飲み交流会では羽後町の盆踊りを披露するなどし、交流を図りました。



羽後町の盆踊り

・第4回復興交付金事業計画提出

防災集団移転促進事業や市道沿線盛土事業、避難路整備事業等に係る第4回交付分として、約139億円の交付を受けました。

【復興交付金が交付された主な事業】

- ・防災集団移転促進事業(工事費・用地買収費)
- ・市道沿線盛土事業(工事費・用地買収費)
- ・避難路整備事業(工事費・用地買収費)

10/25

・岩沼市復興整備協議会で太陽光発電事業の農地転用（農林水産大臣）の同意

宮城県庁で復興庁・農林水産省・宮城県の各担当を交えて開催された岩沼市復興整備協議会において、メガソーラー事業に必要な農地転用に係る土地利用方針「太陽光発電事業（相野釜西地区）」について、東日本大震災復興特別区域法第49条第1項に基づく農林水産大臣の同意を得ました。このことにより、農地を農業以外の用に供することが認められました。

11/2

・復興整備計画（第2回変更）を公表

10月25日の岩沼市復興整備協議会において太陽光発電事業の農地転用（農林水産大臣）の同意を得たことにより、当該事業を盛り込んだ岩沼市復興整備計画（第2回変更）を公表しました。

11/3

・岩沼市防災集団移転促進事業（三軒茶屋西地区）契約書取り交わし会

防災集団移転促進事業について、玉浦西地区に隣接する既存区画整理地（三軒茶屋西地区）を集団移転先として事業を進めることに伴い、岩沼市三軒茶屋西土地区画整理組合から用地取得が完了したことから、本市の集団移転第1号として、当該地に移転を希望される被災者と土地売買および土地賃貸者契約を締結しました。

12/7

・宮城県三陸沖を震源とする地震・津波警報への災害対応

17時18分宮城県三陸沖を震源とする最大震度5弱（岩沼市震度5弱を観測）の地震が発生、17時22分には気象庁から宮城県全域に津波警報が発表されました。これを受けて、市では市役所内に災害対策本部を設置し、本部長（市長）の指示の下で情報伝達・避難所運営などの初動対応を行いました。

12/11

・米国デラウェア州のマーケル州知事が岩沼市の被災地を視察

宮城県とデラウェア州の姉妹州県締結15周年を記念し来県していたマーケル知事夫妻らが、岩沼市を来訪されました。

歓迎式でマーケル州知事は「震災の対応では、皆さんはさまざまな課題・出来事で力を合わせて強さを見せてくれました。大変感動しています」とあいさつされました。

歓迎式後は、津波の被災状況や集団移転地を視察し、相野釜地区では、津波で亡くなった方たちへ献花を行いました。



米国デラウェア州マーケル州知事来訪

・安倍晋三内閣総理大臣来訪

安倍内閣総理大臣、根本復興大臣、村井宮城県知事ら一行が、被災地の先陣を切って着工された玉浦西地区の防災集団移転地造成工事現場を視察するため現地を来訪しました。

視察先では、市長自ら防災集団移転促進事業に関して詳細に説明を行いました。視察後、安倍首相は「全国モデル事業になる」と述べ、同行した村井宮城県知事は「首相からは『全ての大臣が復興相との気概で臨む』と心強い言葉をもらった」と期待感を示しました。



安倍首相が防災集団移転地を視察



1/19

・阿武隈川河口部堤防復旧事業着工式

市内新浜地区の阿武隈川河川敷で国土交通省東北地方整備局主催の「阿武隈川河口部堤防復旧事業着工式」が行われました。



阿武隈川河口部堤防復旧事業着工式



阿武隈川河口部堤防

1/25

・松尾芭蕉像の除幕式

岩沼駅前広場で「松尾芭蕉像の除幕式」が行われました。岩沼建設産業同友会よりいただいた寄付金をもとに、清水焼で知られる京都の陶芸家の今井真正氏が像を制作。また、芭蕉が詠んだ「桜より松は二木を三月越シ」の句碑は、地元書家の大友青陵氏が揮毫されたものを、世界的に活躍されている彫刻家の前田哲明氏に制作していただきました。



松尾芭蕉像の除幕式

1/27

・平成24年度防災講演会開催

市民会館中ホールにおいて東北大学災害科学国際研究所の平川新^{あらた}所長を講師にお招きし、「平成24年度防災講演会」を開催しました。講演では、平成24年9月1日に東北大学災害科学国際研究所の指導の下で実施された「津波を想定した避難訓練」での検証結果と、これまでの岩沼市における災害の歴史・それに対応してきた先人の知恵など現在・過去の両事例からの防災・減災対策についてお話いただきました。



平成24年度防災講演会

1/29

・岩沼海浜緑地復旧・復興工事着工式

下野郷字浜地内で宮城県主催の「岩沼海浜緑地復旧・復興工事着工式」が行われました。

・第5回復興交付金事業計画提出

排水路・排水機場整備事業や千年希望の丘公園整備事業等に係る第5回交付分として、約55億円の配分を受けました。

【復興交付金が交付された主な事業】

- ・排水路・排水機場整備事業（工事費・用地買収費）
- ・千年希望の丘防災公園整備事業（工事費・調査設計費・用地買収費）



岩沼海浜緑地復旧・復興工事着工式

2/6

・市議会議員全員協議会において岩沼市地域防災計画見直し素案について説明

2013

2/7

・尾花沢市へ市職員雪かきボランティア派遣

震災復興に多くの支援をいただいた、山形県尾花沢市に「豪雪ボランティア」として前年に引き続き岩沼市職員19人が派遣されました。

3/2

・東北みらいづくり DAY with Hitachi in 岩沼

市民会館で被災地支援イベント「東北みらいづくり DAY with Hitachi in 岩沼」が開催されました。



東北みらいづくり DAY with Hitachi in 岩沼

3/10

・特集 NHK のど自慢開催

東日本大震災から丸2年となる3月10日、市民会館大ホールで「特集 NHK のど自慢」が開催されました。通常の「NHK のど自慢」は45分番組ですが、今回は震災復興を祈念し放送時間を30分、出場者を5組拡大する特集版として実施されました。

開催日前日には約250組が参加した予選会が行われ、激戦の中、高校生から90歳まで個性豊かな本選出場者25組が決定。本選では、ゲストの五木ひろしさんと坂本冬美さんと一緒に会場を盛り上げていました。

途中、被災地でもある岩手県大船渡市や福島県いわき市の過去にのど自慢に出場した方々のビデオも放映されました。

開催の様子は NHK で全国に放送され、復興をアピールすることができました。



特集 NHK のど自慢

3/11

・東日本大震災岩沼市追悼式開催

東日本大震災から丸2年となる3月11日、市民会館で「東日本大震災岩沼市追悼式」が無宗教献花方式で執り行われました。東日本大震災でお亡くなりになられた方々の遺族をはじめ、姉妹都市や友好都市などからのご来賓、市民の方々など約1,000人が参列しました。

式では、東日本大震災で犠牲となられた方々のご芳名簿を奉獻後、市長が「いまだに信じられません。あの日、あの時を境に世の中が一変しました。二度と悲劇を繰り返さないように防災力を高め、安全安心のまちづくりを一層進め、美しい誇りを持って住み続けることが出来る希望のまち、岩沼市へと復興、発展させていくことを誓います」と式辞を述べました。

政府主催の追悼式の模様も生中継で放映され、東日本大震災発生の午後2時46分に合わせ、黙とうを捧げました。安倍晋三首相の追悼の辞、天皇陛下のおことばも順に放映されました。

遺族を代表し、長谷釜地区の菊地久美子さんが、「もしあの時一緒に逃げていたらと思うと今でも悔やまれます。これからもさまざまな葛藤が出るかと思いますが、少しずつ前を向いて、皆で協力し、支え合いながら進んで行こうと思っています」と祭壇に語りかけました。

最後に、仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏の中、祭壇前に設けられた献花台に参列者が白い菊の花を献花し、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしました。



東日本大震災岩沼市追悼式



3/22

- ・災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定締結調印式



災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定締結調印式



2013.3.24 河北新報

3/23

- ・仙台湾南部海岸(空港区間)堤防完成式

下野郷字浜地内で「仙台湾南部海岸(空港区間)堤防完成式」が行われました。



仙台湾南部海岸(空港区間)堤防完成式



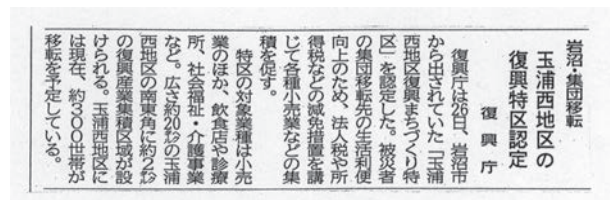
2013.3.24 河北新報

3/26

- ・玉浦西地区復興まちづくり特区が認定

東日本大震災復興特別区域法に基づき策定した岩沼市復興推進計画(玉浦西地区復興まちづくり特区)を国に申請し、認定を受けました。特区認定により、区域内での立地や設備投資を図る関連事業者は税制上の特例措置が適用されます。防災集団移転促進事業による移転予定地である玉浦西地区において、商業や医療・福祉産業をはじめとする生活に直結するサービス業の集積を進め、被災した東部地区における生活環境の整備および雇用機会の創出が期待されます。

2013.3.27 河北新報



3/28

- ・復興整備計画(第3回変更)を公表

【公表内容】

- ・乾燥調製貯蔵施設等整備事業に関する開発行為の許可に関する事項

3/31

- ・東日本大震災に係る岩沼市災害対策本部の閉鎖

市では、東日本大震災が発生した平成23年3月11日当日から、災害対策本部を開設し、発災直後の初動活動から応急活動、そして復旧活動へと時機に



岩沼市災害対策本部の閉鎖

応じてさまざまな対策などを行ってきました。

震災から丸2年が経過し、市としての震災対応も災害対策本部において行うべき災害発生後の応急的対策をおおむね終了し、復興を主とした対策へと移行していることから、平成25年3月末をもって、東日本大震災に係る災害対策本部を閉鎖しました。

4/3

・被災した東保育所が再開

東保育所は、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けたことから、平成23年7月に施設を解体し、再開の準備を進めていましたが、株式会社小松製作所とコマツハウス株式会社からの支援を受け、再開する運びとなりました。開所式では、子どもたちを交えてのテープカットや支援団体への感謝状の贈呈が行われました。

また、一般財団法人空港環境整備協会から遊具の整備の助成を受け、施設環境の向上が図られました。



2013.4.4 河北新報



テープカット



開所式

4/4

・復興整備計画(第4回変更)を公表

【公表内容】

- ・太陽光発電事業に関する農地転用許可に関する事項
- ・防災集団移転促進事業等の移転先(玉浦西地区)に関する開発行為の許可に関する事項

4/17

・農業機械引渡式

JA 名取岩沼玉浦農業格納庫にて、「農業機械引渡式」が行われました。



2013.4.18 河北新報



農業機械引渡式



4/24

・林地区復興事務所引渡式

6/9

・「千年希望の丘」の第1号が完成

千年先までみんなが、笑顔で安心して暮らすことができる岩沼をつくるため築造中の「千年希望の丘」。この第1号となる丘に植樹する「『千年希望の丘』植樹祭」が相野釜地区で開催されました。

日本全国から約4,500人が集まり、多くの方々や企業からいただいた寄付を活用して千年希望の丘の第1号として築造された丘に、鎮魂と未来への希望を託し、タブノキやアカガシなどの17種約3万本の苗木を植樹しました。開会式で、市長は「この丘は21世紀の人類の知恵の遺産となる。今日は、小さな1歩かもしれませんが、復興のモデルとして全世界に発信していきたい」とあいさつし、植物生態学者の宮脇昭氏は「今日植える森はあなたの家族の命を守る森です」と呼びかけ、植樹指導をしました。また、当日は三浦宮城県副知事、公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」理事長の細川護熙元首相や歌手の倉木麻衣さんも植樹に参加しました。

千年希望の丘は、震災廃棄物と津波堆積土を利用して築造した丘に植林し、津波の威力を減衰・分散させる機能を持つ緑の堤防で、全部で15基を計画しています。災害時には避難場所にもなり、また平時には、防災教育や震災記憶の伝承の役割も担うこととなります。



林地区復興事務所引渡式

千年希望の丘



7/2

宮城県南サミット13市町で安倍首相に要望

県南4市9町の首長で構成する宮城県南サミット（会長井口岩沼市長）の要望活動が、首相官邸や復興庁、国土交通省などで行われました。

東日本大震災の発生により沿岸部の市や町が壊滅的な被害を受け、また、内陸部の市や町では原発事故に伴う放射能の問題や道路の損傷などの被害も発生しており、要望活動には12市町長、1副町長が参加し、緊急に取り組むべき課題の解決やさらなる復興の加速に向けて、安倍晋三首相、根本匠復興大臣らに要望書を手渡しました。



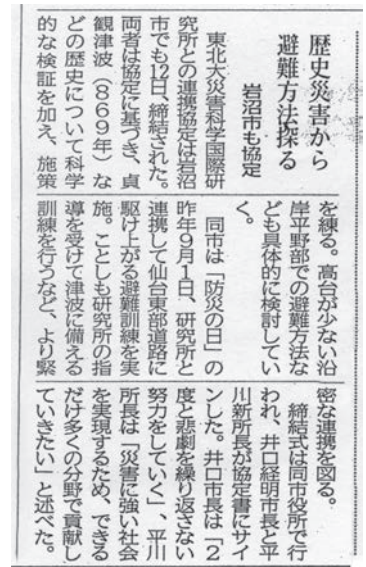
宮城県南サミット13市町で安倍首相に要望

7/12

東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式



協定締結式



2013.7.14 河北新報

7/17

京都祇園祭に市長が招待を受け参加

KBS京都（平野智美アナウンサー）の取材を機にご縁ができた公益財団法人山伏山保存会から被災地支援としてお招きを受け、岩沼市が京都祇園祭に参加しました。市長が山鉾巡行に加わったほか、前日まで行われた宵山には、山伏山地区で岩沼市の物産販売を行うためのブースも設けていただき、岩沼を広く紹介することができました。



京都祇園祭

7/19

臨時災害放送局でNHKのラジオ第一放送を再放送することに関する覚書締結調印式



NHK 仙台放送局 菅俊秀局長と覚書を締結

8/20

・山形県寒河江市との「災害時相互応援協定」締結調印式



「災害時相互応援協定」締結調印式

9/1

・平成 25 年度津波を想定した避難訓練

防災の日の9月1日、昨年度に引き続き「平成25年度津波を想定した避難訓練」が市内東部地区で行われました。今回の訓練では、地域住民や児童・生徒らが参加し、各町内会が独自に設定した避難計画に基づき、仙台東部道路など12カ所の避難場所に避難しました。近隣への声掛けや、徒歩または車による効率的な避難を行いました。



救助訓練



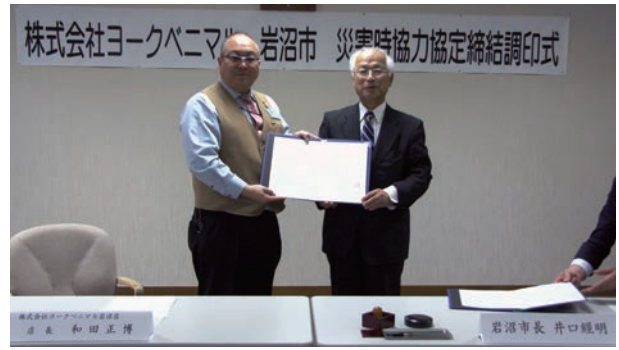
避難訓練

2013.8.21 河北新報

岩沼、寒河江市は20日、「災害時相互応援協定」を締結した。地震などの大規模災害が発生した場合を想定した。食料・飲料水などの物資供給、被災者の救出や医療用の資機材の提供・あつせん、応急復旧活動に必要な職員派遣などを盛り込んだ。岩沼市役所で調印式があり、井口経明岩沼市長（右）と佐藤市長が協定書を交わした。井口市長は「両市は人口規模など共通点も多い。いざという時に備えて協力関係を強めたい」と話した。佐藤市長は「協定を契機に、さらに太い絆が結ばれることを期待する」と述べた。東日本大震災以降、寒河江市が岩沼市に応援職員を派遣したことをきっかけに結び付きが強まった。ことし7月、山形県内各地で大雨による断水が相次いだ際、岩沼市は寒河江市に給水車を派遣した。



宮城県石油商業協同組合との災害時協力協定締結調印式



株式会社ヨークベニマルとの災害時協力協定締結調印式

10/19

・災害廃棄物処理業務(巨理・名取ブロック【岩沼処理区】)火納め式

押分地内の二次仮置き場で「災害廃棄物処理業務(巨理・名取ブロック【岩沼処理区】)火納め式」が関係者300人の出席のもと行われました。

同処理施設では、東日本大震災で発生した岩沼市区域の災害廃棄物について、選別、破碎、焼却などの中間処理を経て、再資源化と最終処分を行いました。昨年4月に火入式が行われ、3基の焼却炉が稼働。業務は順調に進捗し、7月に気仙沼市の災害廃棄物を広域連携の一環として受け入れ、延べ6万4000トン焼却処理し、業務完了しました。

県内八つの処理区のうち、岩沼処理区が無事故・無災害の唯一の施設でした。

10/21

・いわぬま健幸大使に俳優の西村雅彦氏が就任

岩沼の歴史、文化、芸術、東日本大震災からの復興に関することなどを全国に発信するとともに、岩沼市のイメージアップと健幸先進都市を目標としたまちづくりを推進するため創設された「いわぬま健幸大使」の第1号に、俳優の西村雅彦氏を委嘱しました。



西村雅彦氏



2013.10.20
河北新報

2013.10.22
日刊建設新聞

で時代の異なる津波堆積層が発見されたことはこれまで例がなく、とても貴重な成果となりました。

今回の調査では、岩沼市域海岸部における奈良・平安時代以降の土地利用の一端と自然環境の変遷が判明しました。特に東日本大震災からの復興の過程において、東日本大震災津波堆積物の下位から、過去、慶長・貞観地震により2回にわたってこの地に津波が到来した可能性を示す堆積物が確認された意義は非常に大きいといえます。市としては今後、記録保存した今回の成果を防災・減災の面からも、後世に伝えるための貴重な資料として、活用を予定しています。



2013.11.11 朝日新聞

11/15

・武隈(二木)の松が名勝指定

文部科学省の文化審議会の答申により、東北・北陸のうちで13カ所が「おくのほそ道の風景地」として国の名勝に指定されることになり、県内では、市指定文化財「二木の松(武隈の松)」が指定されました。



松尾芭蕉像



武隈(二木)の松

2013.11.20 読売新聞

11/23

・いわぬま健幸大使に作曲家の三枝成彰氏が就任

市民会館大ホールで行われた「岩沼コンサート2013」の開演に先立ち、2人目となる「いわぬま健幸大使」に、作曲家の三枝成彰氏が委嘱しました。



三枝成彰氏

11/24

・静岡県袋井市との「防災交流都市協定」締結調印式

2013.11.25 静岡新聞

袋井市 岩沼市(宮城)と防災協定
 情報交換など 平時の活動も明文化

袋井市は24日、東日本大震災以降支援してきた宮城県岩沼市と「防災交流都市協定」を結んだ。災害発生時の応援内容だけでなく、防災や復旧に関する情報交換など平時の活動についても明文化した。同日、袋井市内で原田市長と井口市長が協定書に調印した。井口市長は調印式終了後、岩沼市の復興をテーマに講演し、仮設住宅や集団移転などについて語った。袋井市側は職員や自治会役員ら約200人が聞き入った。

岩沼市は仙台市の南約18キロに位置し、人口約4万4千人で面積は約61平方キロ。袋井市は2010年に岩沼市の市議が耐震対策事業の視察で訪れたのをきっかけに、震災後支援を始めた。その後交流を重ね、互いに連携を深めようと協定の締結に至った。



静岡県袋井市との「防災交流都市協定」締結調印式

11/25

・玉浦西地区まちづくり検討委員会から市長へ最終報告

集団移転先のまちづくりを総合的に検討する「玉浦西地区まちづくり検討委員会」より、市長に検討結果の報告がありました。

平成24年6月11日の設置以来、約1年半の間に28回の会議を重ねてきた検討会の阿留多伎真人委員長は「まちを造れば終わりではなく、大切なのはそこに出来るコミュニティの形成やまちの利活用が重要です。このまちを中心として、玉浦地区が復活することを願っています」と述べ、市長は「長期間に渡り検討をいただいたことに感謝しています。玉浦地区の再生の方向性を示した報告書と受け止め、報告書の内容を最大限尊重して、早期に具現化していきたい」と話しました。



井口市長に検討結果の報告



玉浦西地区

2013.11.26 河北新報

コミュニティ醸成を
 岩沼玉浦西 検討委が最終報告

東日本大震災で被災した岩沼市沿岸部6地区の集団移転先の在り方を考える玉浦西地区まちづくり検討委員会は25日、最終報告書をまとめ、井口経明市長に提出した。「自然災害に強い安全・安心なまち」など基本方針7項目を掲げ、住民のコミュニティを醸成することを明記。6地区の従来のコミュニティを尊重しつつ、まちを東西に結ぶ緑道や集会所、公園などを整備し、全体の交流が進むような地域づくりを促した。

防災公園の整備や基本的な避難ルールなども策定。宅地と道路の境界を生け垣で統一するといった景観上の規定も盛り込んだ。

検討会は住民代表や学識経験者らで構成し、昨年6月から28回の会合を重ねた。委員長の阿留多伎真人尚綱学院大教授は「委員の思いが120%詰まった報告書ができた。足りない部分は実際に住む方々が創意工夫で補い、いまちを再現してほしい」と話した。



2013.4.1 朝日新聞

11/30

・千年希望の丘(第2号)整備工事安全祈願祭

下野郷字浜地内で「千年希望の丘」の安全祈願祭が行われました。この丘は、平成25年6月に植樹祭が行われた第1号の西側に第2号として国の復興交付金により整備されます。高さ10m、上部面積は100㎡。避難丘のほか、園路や多目的広場の整備が行われ、使用される盛り土のうち再生された資材を約9割活用し、造成されます。



千年希望の丘(第2号)整備

12/7

・ジャイアンツスポーツフェスタ in 岩沼

東日本大震災の被災に伴い改修工事を行っていた総合体育館(岩沼ビッグアリーナ)の利用が12月15日に再開され、一般利用に先立ち、「ジャイアンツスポーツフェスタ in 岩沼」が開催されました。プロ野球読売巨人軍の内海哲也選手会長をはじめ、亀井善行、山口鉄也、坂本勇人、菅野智之、宮國京丞の6選手が子どもたちと「フルーツバールン転がし」や「綱引き」などを行い交流しました。



ジャイアンツスポーツフェスタ in 岩沼

12/17

・農山漁村地域復興基盤総合整備事業岩沼地区起工式

起工式で、谷公一・復興副大臣は「産業の柱として農業復興に熱意を持って取り組まれてきたことに敬意を表したい」と話した。村井知事は「原形復旧だけでなく、全国の農業のモデルになるよう、取り組んでいきたい」と力を込めた。

この事業は岩沼地区のほか、県内7地区でも計画している。復興交付金が国の補助金が充てられるため、県や自治体の負担は実質、ゼロとなる。



2013.12.18 読売新聞

・玉浦西地区第1期宅地引渡し式

玉浦西地区の宅地造成工事の一部が完了し、移転者に宅地の引渡しをする「玉浦西地区第1期宅地引渡し式」が小泉復興大臣政務官、三浦宮城県副知事など関係者の参列のもと、同地区にて行われ、移転者との間で土地の分譲・借地契約が取り交わされました。

岩沼市の防災集団移転事業は、国の「防災集団移転促進事業」第1号に指定され、大きな注目を集めています。これまでスピード感を持って復興に取り組み、トップランナーとして走ってきた岩沼市。今回の「宅地引渡し式」も大規模な造成を伴う集団移転事業として被災地で最も早く始めることができました。



玉浦西地区第1期宅地引渡し式

集団移転のまち 第1号
宮城・岩沼 宅地引き渡し 始まる

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県岩沼市で、六つの集落がまとまって移転する住宅団地の造成が一部完成し、21日、宅地の引き渡しが始まった。来年秋ごろには336戸、約1千人が暮らす「新しいまち」が生まれる。100戸以上規模の集団移転では被災地で最も早く、住民主導のコンパクトなまちづく

り注目されている。同市では海沿いに発生する6集落が津波にのまれて、防災集団移転促進事業により1カ所に集まって再建することになった。住民らの話し合いで、海岸から3.5キロ離れたところへ移転先を決定。市が農地を買取り、昨年8月から造成工事を進めてきた。6集落の住民の約6割が移転を希望し、名簿が出た。

「新しいまち」玉浦西は、中学生以上の住民による委員で選んだ。道路や公園の配置、まち並みのルールづくりなども、6集落の代表者が議論を重ねて決めてきた。

岩手、宮城、福島3県で計300地区余りの集団移転が計画されているが、造成完了した住宅建築まで進んだのは岩沼市が初めて。岩沼市では住民と行政が丁寧な議論を重ねたことが、移転先決定やまちづくりの円滑な進捗につながっている。(宮城県)

被災した集落
 玉浦西地区
 阿武隈川
 岩沼駅
 仙台東港
 宮城県
 山形県
 太平洋

玉浦西地区の集団移転先

2013.12.22 朝日新聞

契約書の取り交わし



・健康医療産業集積推進事業に関する復興シンポジウム開催

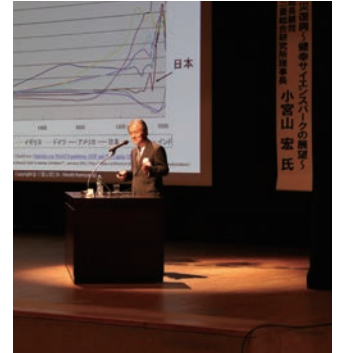
復興計画の一つである健康医療産業集積推進事業について、さらに企業進出を加速させるため、復興シンポジウムを開催。企業や市民など522名の参加がありました。

シンポジウムの第一部は、東京大学総長顧問であり(株)三菱総合研究所理事長の小宮山宏氏が「プラチナ社会の実現に向けて日本“再創造”と岩沼市の震災復興～健幸サイエンスパークの展望～」と題した基調講演を行いました。

第二部のパネルディスカッションでは、復興庁参事官の田所創氏、宮城県副知事の若生正博氏、東北大学大学院教授の小坂健氏、(株)にしき食品の菊池洋氏、岩沼市長の井口経明をパネリストに、小宮山宏氏をファシリテータに迎えて行われ、企業進出に対する支援措置や健康医療産業集積地への期待などの話題が提供されました。



健都いわぬま復興シンポジウム



小宮山宏氏による基調講演

・第8回復興交付金事業計画提出



2014.1.23 日刊建設新聞

・防災講演会

市民会館中ホールで「平成25年度防災講演会」を開催しました。講師に仙台管区気象台気象防災部予報課長の白川栄一氏をお迎えし、「特別警報と近年の気象災害」と題して講演を行いました。

・岩沼市追悼式

平成23年3月11日に発生した東日本大震災でお亡くなりになられた市民などの慰霊を行うとともに、市の復興を誓うため、市民会館で追悼式を開催。

防災協定等締結状況一覧

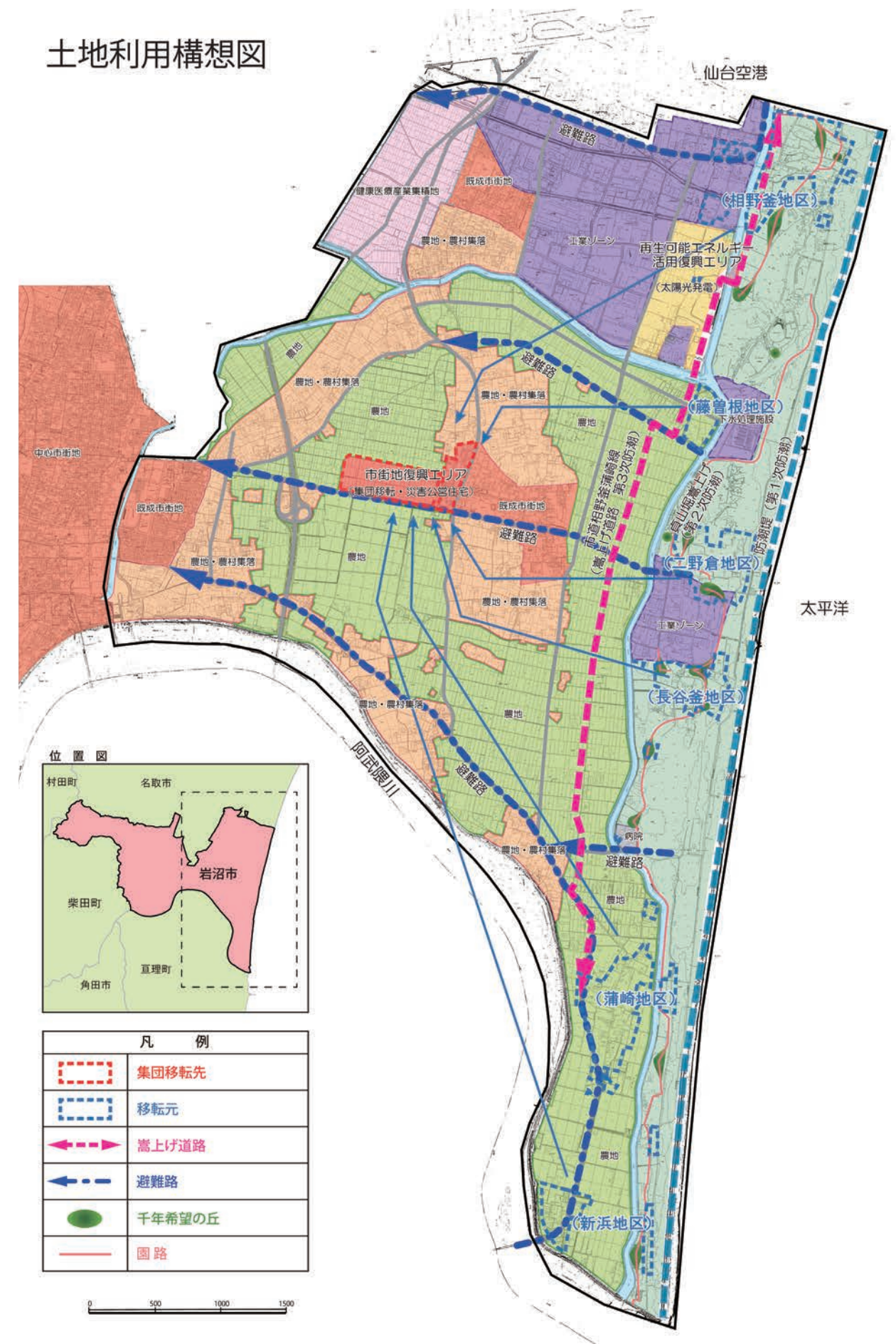
連番	協定名	協定締結先	締結年月日	主な内容
1	宮城県広域消防相互応援協定	仙台市・名取市・石巻広域行政事務組合ほか8広域行政事務組合	平成4年4月1日	人命救助・被害軽減
2	宮城県広域航空消防応援協定	仙台市・名取市・石巻広域行政事務組合ほか8広域行政事務組合	平成4年4月1日	災害による被害軽減
3	仙台空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定	仙台空港事務所・仙台市・名取市	平成6年9月8日	被害の防止・救援
4	仙台東部道路消防相互応援協定	名取市消防本部	平成7年7月7日	仙台東部道路における火災・救急事故対応
5	福島・宮城・山形広域圏災害時相互応援協定	福島市・二本松市・本宮市・伊達市・相馬市・南相馬市・新地町・桑折町・国見町・川俣町・飯館村・大玉村・名取市・白石市・角田市・亘理町・山元町・蔵王町・七ヶ宿町・大河原町・村田町・柴田町・川崎町・丸森町・米沢市・長井市・南陽市・高畠町・川西町・白鷹町・飯豊町・小国町	平成9年1月16日	災害時における人的・物的相互支援
6	「赤いバイクの街角情報」に関する協定	岩沼郵便局	平成9年9月1日	被災状況・災害発生危険状況・独居老人の安否などに関する情報提供
7	緊急時における災害放送等に関する協定	(株)エフエムいわぬま	平成10年8月24日	緊急時における災害放送についてや情報提供
8	災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定	みやぎ生活協同組合	平成10年9月2日	生活物資供給
9	災害時相互応援協定	山形県尾花沢市	平成12年8月25日	災害時における人的・物的相互支援
10	災害時における宮城県市町村相互応援協定	宮城県・宮城県市長会・宮城県町村会	平成16年7月26日	災害時における人的・物的相互支援
11	災害にかかる応急措置等の協力に関する協定	岩沼建設産業同友会	平成16年11月24日	道路、水路施設等の応急措置
12	大規模災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営に関する覚書	宮城県・岩沼市社会福祉協議会	平成16年12月1日	災害ボランティアセンターの設置・運営に対する協力
13	災害にかかる応急措置等の協力に関する協定	岩沼市水道工事組合	平成17年10月25日	水道施設等の応急措置
14	災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定	(株)アクティオ	平成17年11月30日	レンタル機材の提供
15	災害時における愛玩動物の保護に関する協定	岩沼地区獣医師会	平成18年2月24日	愛玩動物の保護
16	災害時におけるタクシー業務無線の活用に関する協定	稲荷タクシー、きくやタクシー	平成18年9月1日	タクシー業務無線の活用
17	電力設備災害復旧に関する協定	東北電力(株)岩沼営業所	平成20年6月6日	電力設備復旧
18	災害時の医療救護活動に関する協定	岩沼市医談会	平成21年5月21日	医療救護活動
19	災害時の医療救護活動に関する協定	岩沼市歯科懇話会	平成21年5月21日	医療救護活動
20	災害時の医療救護活動に関する協定	岩沼薬剤師会	平成21年5月21日	医療救護活動
21	大規模災害時における建築物等の解体撤去等の協力に関する協定	宮城県解体工事業協同組合	平成22年3月29日	倒壊、焼失した建築物等の解体撤去等

連番	協定名	協定締結先	締結年月日	主な内容
22	災害時応急用ダンボールの供給に関する協定	株式会社トーモク仙台工場、大村紙業株式会社仙台事業部	平成22年8月27日	災害時応急用ダンボールの生産及び供給
23	仮設住宅サポートセンターの運営に関する協定	社団法人青年海外協力協会(JOCA)	平成23年6月25日	里の杜サポートセンター開設に伴う運営に関する協定
24	災害時相互応援協定	高知県南国市	平成24年8月20日	災害時における人的・物的相互支援
25	大震災等大規模災害発生時における施設使用に関する協定	岩沼警察署	平成24年10月16日	災害時における施設使用に関する協定
26	津波時における一時避難施設としての使用に関する協定	仙台空港ビル株式会社	平成25年3月8日	津波発生時における緊急一時的な避難場所としての使用
27	災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定	社会福祉法人ライフケア赤井江 社会福祉法人敬長福祉会 社会医療法人将道会 医療法人社団森川内科医院 株式会社ウエル 特定非営利活動法人ホームひなたばっこ 社会福祉法人しおかぜ福祉会	平成25年3月22日	災害時における福祉避難所の設置運営
28	災害時における隊友会の協力に関する協定	宮城県隊友会岩沼支部	平成25年6月21日	災害時における自衛隊活動への協力
29	岩沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定	東北大学災害科学国際研究所	平成25年7月12日	防災・減災対策全般
30	臨時災害放送局でNHKのラジオ第一放送を再放送することに関する覚書	日本放送協会仙台放送局	平成25年7月19日	災害時における放送による情報伝達
31	災害時相互応援協定	山形県寒河江市	平成25年8月20日	災害時における人的・物的相互支援
32	災害時における駐車場の一時使用に関する確認書	株式会社アイリスプラザ ダイシンカンパニー	平成25年10月9日	津波発生時における緊急一時的な避難場所としての使用
33	災害時における燃料等供給協力に関する協定	宮城県石油商業協同組合	平成25年10月18日	災害時における燃料優先供給
34	災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定	株式会社ヨークベニマル	平成25年10月18日	生活物資供給、災害時一時避難場所
35	防災交流都市協定	静岡県袋井市	平成25年11月24日	災害時における人的・物的相互支援、平時からの情報交換

目次

- ・発行に寄せて
岩沼市長 井口 経明…………… 1
- ・岩沼市の紹介…………… 2
- ・被災状況…………… 3
- ・被災写真…………… 4
- ・自衛隊による救出活動…………… 16
- ・復旧・復興活動（関連する主な出来事など）
 - ・2011年…………… 18
 - ・2012年…………… 46
 - ・2013年…………… 60
 - ・2014年…………… 77
- ・防災協定等締結状況一覧…………… 79
- ・土地利用構想図…………… 81

土地利用構想図



2011. 3. 11

東日本大震災 岩沼市の記録

～震災から3年 地域再生と復興への軌跡～



発行 平成26年3月

制作 岩沼市

〒989-2480 宮城県岩沼市桜一丁目6-20

TEL: 0223-22-1111 FAX: 0223-24-0897

 宮城県岩沼市